

PLANE DISPLAY PANEL AND METHOD FOR MANUFACTURING THE SAME

Publication number: JP3384809B2

Publication date: 2003-03-10

Inventor:

Applicant:

Classification:

- international: **G09G3/28; H01J17/49; G09G3/28; H01J17/49; (IPC1-7): H01J11/02; G09F9/313; G09G3/288; H01J9/02; H01J9/24; H01J9/26; H01J9/385**

- European: G09G3/28T; G09G3/288S2; H01J17/49

Application number: JP19980541450T 19980330

Priority number(s): JP19970080540 19970331; JP19970080541 19970331; JP19970308829 19971111; WO1998JP01444 19980330

Also published as:



EP0908919 (A1)
WO9844531 (A1)
US6323596 (B1)
EP0908919 (A4)
CN1536547 (A)

more >>

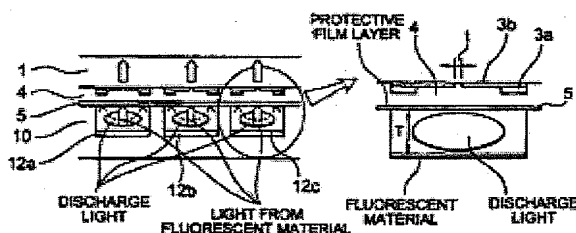
Report a data error here

Abstract not available for JP3384809B2

Abstract of corresponding document: **EP0908919**

A common electrode and an individual electrode are provided in plural pairs on a first transparent substrate, and recesses are formed in a second substrate in positions corresponding to the pairs of electrodes to define discharge cells of display cells. The display cells of a display panel can be individually driven on the cell-by-cell basis and the planar panel has a reduced thickness. A driving circuit for changing luminance in accordance with the number of pulses applied to the individual electrode within a unit time to make gradation display is provided, and gradation control is achieved by performing switching control for each of the individual electrodes provided independently of one another in one-to-one relation to the display cells. A voltage pulse is applied to the individual electrode to reverse the polarity of wall charges accumulated on a dielectric layer, and a voltage pulse is then applied to the common electrode so that an electric field of the wall charges caused upon the reversal of the polarity is additionally applied. Thereby provided are a planar display panel which can set a large control margin in the display operation, ensure stable display, and present gradation display with high reliability and quality, as well as a manufacturing method, a controller, and a driving method for the planar display panel.

FIG. 4



12(12a~12c): FLUORESCENT MATERIAL LAYER

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11)特許番号

特許第3384809号
(P3384809)

(45)発行日 平成15年3月10日(2003.3.10)

(24)登録日 平成14年12月27日(2002.12.27)

(51)Int.Cl.⁷

識別記号

F I

H 0 1 J 11/02

G 0 9 F 9/313

G 0 9 G 3/288

H 0 1 J 9/02

9/24

H 0 1 J 11/02

G 0 9 F 9/313

H 0 1 J 9/02

9/24

9/26

B

B

F

B

A

請求項の数14(全 29 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号

特願平10-541450

(86) (22)出願日

平成10年3月30日(1998.3.30)

(86)国際出願番号

P C T / J P 9 8 / 0 1 4 4 4

(87)国際公開番号

W O 9 8 / 0 4 4 5 3 1

(87)国際公開日

平成10年10月8日(1998.10.8)

審査請求日

平成12年12月20日(2000.12.20)

(31)優先権主張番号

特願平9-80540

(32)優先日

平成9年3月31日(1997.3.31)

(33)優先権主張国

日本 (J P)

(31)優先権主張番号

特願平9-80541

(32)優先日

平成9年3月31日(1997.3.31)

(33)優先権主張国

日本 (J P)

(31)優先権主張番号

特願平9-308829

(32)優先日

平成9年11月11日(1997.11.11)

(33)優先権主張国

日本 (J P)

(73)特許権者

999999999

三菱電機株式会社

東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

(72)発明者

伊藤 篤

東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

三菱電機株式会社内

(72)発明者

有本 浩延

東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

三菱電機株式会社内

(72)発明者

伊藤 廣

東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

三菱電機株式会社内

(74)代理人

999999999

弁理士 曾我 道照 (外6名)

審査官

橋本 直明

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 平面表示パネルとその製造方法

1

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】第1の透明基板と、

上記第1の透明基板上に設けられた一対の電極と、
上記一対の電極と対向する部分に凹部が設けられて表示
セルの放電空間を形成する第2の基板と

を備えてなり、

上記一対の電極は、上記第1の透明基板上に設けられて
表示画面を構成する全表示セルを一括または任意の複数の
の表示セルを部分的に同時駆動する共通電極と、上記第
1の透明基板上に設けられて表示画面を構成する表示セル
1セル毎に個別駆動する個別電極とを有する

ことを特徴とする平面表示パネル。

【請求項2】請求項第1項記載の平面表示パネルにおい
て、上記第1の透明基板上に設けられた一対の電極は、
上記第1の透明基板上に複数併置されて電極群を構成し

2

てなることを特徴とする平面表示パネル。

【請求項3】請求項第1項記載の平面表示パネルにおい
て、上記凹部は、矩形でなり所望の深さを有することを
特徴とする平面表示パネル。

【請求項4】請求項第3項記載の平面表示パネルにおい
て、上記凹部は、300~600 μ mの範囲の深さを有するこ
とを特徴とする平面表示パネル。

【請求項5】請求項第1項記載の平面表示パネルにおい
て、上記第1の透明基板上に設けられて上記一対の電極
を被覆する誘電体層を設けたことを特徴とする平面表示
パネル。

【請求項6】請求項第1項記載の平面表示パネルにおい
て、上記第2の基板の上記凹部の底面に蛍光体層を設け
たことを特徴とする平面表示パネル。

【請求項7】請求項第6項記載の平面表示パネルにおい

て、上記第2の基板の上記凹部の底面と上記蛍光体層との間に反射層を設けたことを特徴とする平面表示パネル。

【請求項8】請求項第1項記載の平面表示パネルにおいて、上記第2の基板に形成される凹部の深さは、放電に関与する1表示セル内の共通電極と個別電極との間隙の3倍以上とすることを特徴とする平面表示パネル。

【請求項9】請求項第1項記載の平面表示パネルにおいて、上記第2の基板に形成される各表示セル間に排気溝を設けると共に、上記第2の基板に上記排気溝と連通される排気用スルーホールを設けたことを特徴とする平面表示パネル。

【請求項10】請求項第1項記載の平面表示パネルにおいて、上記第1の透明基板上の表示画面を構成する表示セル間の位置に設けられる上記共通電極及び上記個別電極上にリードピンを立設すると共に、上記第2の基板の上記リードピンと対向する位置に上記リードピンを表示画面の背面側に引き出す電極取り出し用スルーホールを設けたことを特徴とする平面表示パネル。

【請求項11】請求項第10項記載の平面表示パネルにおいて、上記リードピンは、上記共通電極及び上記個別電極の母電極材料と同じ金属材料を主成分とするペーストまたはロウ材により上記共通電極及び上記個別電極の母電極に融着してなることを特徴とする平面表示パネル。

【請求項12】請求項第10項記載の平面表示パネルにおいて、上記リードピンは、電極に融着される大径の下端部を有し、上記電極取り出し用スルーホールは、上記リードピンの下端部が嵌挿される大径部と、上記リードピンの先端部が延出される小径部とでなる段差形状を有することを特徴とする平面表示パネル。

【請求項13】請求項第11項記載の平面表示パネルにおいて、上記リードピンの融着部付近に、上記第1と第2の基板の封止時に封止材の表示セルへの流入を防止する封着用ガードを設けたことを特徴とする平面表示パネル。

【請求項14】第1の透明基板上に個別電極の透明電極をパターンニングする工程と、
上記透明電極が形成された第1の透明基板上に個別電極と共通電極の母電極を形成する工程と、
上記第1の透明基板の個別電極と共通電極を被覆する誘電体層を形成する工程と、
上記誘電体層の電極取り出し窓を介して上記個別電極と上記共通電極上にリードピンを立設するピン組み立て工程と、
上記ピン組み立て工程を経た第1の透明基板上に保護膜を形成する工程と

を有すると共に、

上記第2の基板上に表示画面を構成する各表示セルの放電空間を形成するための凹部と上記共通電極及び上記個別電極上に立設されるリードピンを表示画面の背面側に

引き出す電極取り出し用スルーホール及び排気用スルーホールを刻設する工程と、
上記表示セルを形成する各凹部の底面に蛍光体層を形成する工程と

を有し、

かつこれら工程を経た第1の透明基板のリードピンを第2の基板のスルーホールを経て外部に延出させるべく第1と第2の基板を嵌合させてパネルを組み立てる工程と、

10 組み立てられた第1と第2の基板を封着する工程とを有する平面表示パネルの製造方法。

【発明の詳細な説明】

技術分野

この発明は、文字、図形、映像等を表示する平面型の表示パネルとなる平面表示パネルとその製造方法に関するものである。

背景技術

従来、放電し得るガス媒体を挟んで併設された複数の線状電極をマトリクス状に配設し、選択された両電極間に電圧を印加することにより、両電極の交点でガス放電させるようにした平面表示パネルとして、例えば日本国特開平3-160488号公報、特開平2-90192号公報及び実開平3-94751号公報に示すものがある。

しかしながら、上述した従来例に係る平面表示パネルは、透光性を有する2枚の絶縁基板を貼り合わせて空間を作り、空間内にマトリクス状の放電用電極を形成するように各基板に電極をそれぞれ設けて空間を隔てて対向配置させると共に、各電極毎に放電空間を区画するための隔壁を設ける構造となっているため、マトリクス状に対向配置した電極を選択することで表示制御を行うようになっている、各表示セル毎に独立して表示制御することができなかった。また、上述した構造により表示パネルの平面厚さが厚くならざるを得なかった。

また、従来、気体放電を利用して表示を行う平面型のパネルとして、1983年11月発行、大脇、吉田著の「プラズマディスプレイ」に記載されているものがある。

このパネルは、放電空間を挟んでマトリクス状に対向するガラス等の絶縁体で被覆された櫛形電極を配置することにより構成され、また、行もしくは列をなす表示セルは、単一の櫛形電極により一括して駆動される。

また、表示制御は、行列をなす櫛形電極を用いて走査側の櫛形電極を順次駆動し、選択された櫛形電極とマトリクス対向する電極間にある表示セルに微少放電を発生させる書き込み動作とその書き込み動作により微少放電が発生した表示セルのみを選択的にしかも表示画面全体を発光させる維持動作、画面全体の表示セルの電気的な状態を揃えるための全面書き込み、全面消去動作という3つの動作によって行われている。

さらに、映像表示を行うためには表示セルごとの輝度制御を行う必要があるが、制御、表示電極が多くの表示

セルを同時に受け持っており、表示セルが2値動作（発光・非発光の2つの状態しか取り得ない）の特性を持つ関係上、特殊な方法を用いなければ階調表示ができず、例えば日本国特開平6-186927号公報に記載されるような駆動方式を採っている。

これは、表示期間を輝度表示のために維持期間の異なる（維持期間の輝度の異なる）複数期間に分割し、それぞれの期間において、表示データの書き込み、維持動作を行うことによりそれぞれの期間での輝度を組み合わせる階調表示を行う方式である。

しかしながら、この従来のパネルの駆動方法は、対向したマトリクス電極を制御し表示放電を行うために、それぞれの電極は100以上の複数表示セルを一括制御することとなり、表示を行うためには、マトリクス配列した電極群を用い走査電極を順次走査することによる書き込み工程、マトリクス電極群に交互に維持電圧パルス印加し書き込みが行われた表示セルのみを発光表示させる維持工程、表示セル、非表示セルの電気的な状態を均一にするための全面放電、全面消去工程を時間的に順次行う必要がある。

また、このようなシーケンス制御を行うためには、表示セル個々の放電開始電圧値、放電を維持するための最小の電圧値、書き込み放電を発生させるための書き込み電圧値等製造工程中で大きな個体差の発生し得る放電セルの特性に大きく依存する制御を行わざるを得ず、特に、放電維持のための電圧は、高電圧側では放電開始電圧に、低電圧側は最小維持電圧によって制限されるために、10~20V程度の幅しか無いことが多い。

以上の理由により、表示を安定的に行うための制御マージンを大きく取れず、表示維持の電圧、書き込みのための電圧、放電開始のための電圧等を表示パネル個々に調整する必要があり、動作を続けることによりこれらの電圧値が変動すると再調整の必要があった。また、複雑に絡み合った表示セルの特性が1枚の表示パネルにおいても大きく変動することにより製品歩留まりの低下という問題があった。

さらに、上述したように従来の気体放電パネルの階調制御方式では、データの書き込み、表示維持という少なくとも2つの動作を階調表現できる組み合わせ回数行うこと、さらに、書き込み動作には少なくとも1~2m秒必要であるため、表示の維持期間は書き込み期間を挟み込んで不連続となる。

階調表現としては、1シーケンス（約16ms：フレーム周波数60Hz）で終了するように制御が行われるが、1シーケンス内では時間的に連続的な輝度制御が不可能なために、表示の階調表現（パネル駆動による設計的な階調表現）と人間の目による輝度変化の知覚に対する不整合が生じる。このため、擬似輪郭と呼ばれる階調の不連続点が知覚され、映像表示の品質が大きく低下するという問題も含んでいた。

この発明は上述した点に鑑みてなされたもので、表示パネルの1表示セル毎に個別駆動が可能であり、かつ平面厚さを薄くすることができる放電空間の構造を有する平面表示パネル及びその製造方法を得ることを目的とする。

発明の開示

この発明に係る平面表示パネルは、第1の透明基板と、上記第1の透明基板上に設けられた一対の電極と、上記一対の電極と対向する部分に凹部が設けられて表示セルの放電空間を形成する第2の基板とを備えてなり、上記一対の電極は、上記第1の透明基板上に設けられて表示画面を構成する全表示セルを一括または任意の複数の表示セルを部分的に同時駆動する共通電極と、上記第1の透明基板上に設けられて表示画面を構成する表示セル1セル毎に個別駆動する個別電極とを有することで、表示パネルの1表示セル毎に個別駆動が可能であり、かつ平面厚さを薄くすることができる放電空間の電極構造を有する平面表示パネルを提供する。

また、上記第1の透明基板上に設けられた一対の電極は、上記第1の透明基板上に複数併設されて電極群を構成することで、複数の放電セルの電極構成を容易に形成する。

また、上記凹部は、矩形でなり所望の深さを有することにより、放電空間を区画するための隔壁を設けることなしに、かつ電極形成に関係なく放電空間を直接形成して、表示パネルの平面厚さを薄くする。

また、上記凹部は、300~600 μ mの範囲の深さを有することにより、放電空間の厚みを厚くして輝度を上げることができる。

また、上記第1の透明基板上に設けられて上記一対の電極を被覆する誘電体層を設けることで、外部への電荷の拡散を防いで電荷を放電セル内に閉じ込めることができるようにする。

また、上記第2の基板の上記凹部の底面に蛍光体層を設けることにより、カラー表示を容易に行うことができ、均一な輝度を得て映像の均一性を得ることができるものである。

また、上記第2の基板の上記凹部の底面と上記蛍光体層との間に反射層を設けることにより、蛍光体の発光を前面に出すことができるようにする。

また、上記第2の基板に形成される凹部の深さを、放電に関与する1表示セル内の共通電極と個別電極との間隙の3倍以上とすることにより、放電空間の厚みを厚くして輝度を上げることができるものである。

また、上記第2の基板に形成される各表示セル間に排気溝を設けると共に、上記第2の基板に上記排気溝と連通される排気用スルーホールを設けることにより、真空排気時の不純ガスの経路を確保するものである。

また、上記第1の透明基板上の表示画面を構成する表示セル間の位置に設けられる上記共通電極及び上記個別

7

電極上にリードピンを立設すると共に、上記第2の基板の上記リードピンと対向する位置に上記リードピンを表示画面の背面側に引き出す電極取り出し用スルーホールを設けることで、電極を表示画面の背面側に容易に引き出すことができるようにする。

また、上記リードピンは、上記共通電極及び上記個別電極の母電極材料と同じ金属材料を主成分とするペーストまたはロウ材により上記共通電極及び上記個別電極の母電極に融着することで、リードピンを電極上に強固に形成することができるようにする。

また、上記リードピンは、電極に融着される大径の下端部を有し、上記電極取り出し用スルーホールは、上記リードピンの下端部が嵌挿される大径部と、上記リードピンの先端部が延出される小径部とでなる段差形状を有することで、リードピンの位置合わせを容易に行うことができると共に第1と第2のガラス基板の無用なギャップの発生を防止する。

また、上記リードピンの融着部付近に、上記第1と第2の基板の封止時に封止材の表示セルへの流入を防止する封着用ガードを設けることにより、封止材の表示セルへの流入を防止するものである。

また、この発明に係る平面表示パネルの製造方法は、第1の透明基板上に個別電極の透明電極をパターニングする工程と、上記透明電極が形成された第1の透明基板上に個別電極と共通電極の母電極を形成する工程と、上記第1の透明基板の個別電極と共通電極を被覆する誘電体層を形成する工程と、上記誘電体層の電極取り出し窓を介して上記個別電極と上記共通電極上にリードピンを立設するピン組み立て工程と、上記ピン組み立て工程を経た第1の透明基板上に保護膜を形成する工程とを有すると共に、上記第2の基板上に表示画面を構成する各表示セルの放電空間を形成するための凹部と上記共通電極及び上記個別電極上に立設されるリードピンを表示画面の背面側に引き出す電極取り出し用スルーホール及び排気用スルーホールを刻設する工程と、上記表示セルを形成する各凹部の底面に蛍光体層を形成する工程とを有し、かつこれら工程を経た第1の透明基板のリードピンを第2の基板のスルーホールを経て外部に延出させるべく第1と第2の基板を嵌合させてパネルを組み立てる工程と、組み立てられた第1と第2の基板を封着する工程とを有することにより、表示パネルの1表示セル毎に個別駆動が可能であり、かつ平面厚さを薄くすることができる電極構造を有する平面表示パネルを容易に得るものである。

図面の簡単な説明

図1は、この発明の実施の形態1に係る平面表示パネルの全体を示す概略構成図、

図2は、この発明の実施の形態1に係る表示パネルを構成する第1の透明基板としてのフロントガラス基板上の構成を示す部分斜視図、

8

図3は、この発明の実施の形態1に係る表示パネルを構成する第2の基板としてのバックガラス基板上の構成を示す部分斜視図、

図4は、図3のa-a'線断面図、

図5は、バックガラス基板上の排気溝を示す構造図、

図6は、リードピン6と電極取り出し用スルーホール13の形状を説明する説明図、

図7は、フロントガラス基板1のリードピン6の融着部付近に設けられる封着用ガード15の説明図、

10 図8は、フロントガラス基板1の製造工程図、

図9は、図8に続く製造工程図、

図10は、バックガラス基板10の製造工程図、

図11は、フロントガラス基板1とバックガラス基板10を嵌め合わせて表示パネルを組み立て封止する最終工程図、

図12は、この発明の実施の形態2に係る平面表示パネルの制御装置を説明するもので、各表示セルを放電管として表した表示パネルの等価回路図、

20 図13は、この発明の実施の形態2に係る平面表示パネルの制御装置を説明するもので、駆動回路のブロック構成図、

図14は、図13の駆動回路による輝度階調の表示のための各電極への駆動波形図、

図15は、図13の変形例を示す駆動回路のブロック構成図、

図16は、図14の駆動回路による輝度階調の表示のための各電極への駆動波形図とその説明図、

図17は、この発明の実施の形態2に係る平面表示パネルのシステム構成図、

30 図18は、この発明の実施の形態2に係る平面表示パネルの制御装置を説明するもので、図17においてカスケード接続された各表示モジュールの駆動回路に制御信号を与える信号処理回路を示す構成図、

図19は、図18に示す信号処理回路の動作を説明する波形図、

図20は、図18に示すパルスカウンタ56とルックアップテーブル57及び表示データ生成部58により個別電極制御を行うための階調データ作成に係る階調表示処理を説明するブロック図とフローチャート、

40 図21は、図18に示すルックアップテーブル57の入出力特性図、

図22は、この発明の実施の形態3に係る平面表示パネルの駆動方法を説明する個別電極駆動部のブロック図、

図23は、この発明の実施の形態3に係る平面表示パネルの駆動方法を説明する駆動シーケンス図、

図24は、この発明の実施の形態3に係る平面表示パネルの駆動方法を説明する表示パネルの動作説明図、

図25は、この発明の実施の形態3に係る平面表示パネルの駆動方法を説明する表示パネルの動作説明図、

50 図26は、この発明の実施の形態3に係る平面表示パネ

ルの駆動方法を説明する表示セルの初期化動作説明図、

図27は、この発明の実施の形態3に係る平面表示パネルの駆動方法を説明する放電動作説明図、

図28は、この発明の実施の形態3に係る平面表示パネルの駆動方法を説明する表示セルの制御特性図、

図29は、この発明の実施の形態3に係る平面表示パネルの駆動方法を説明する表示セルの制御特性図、

図30は、この発明の実施の形態3に係る平面表示パネルの駆動方法を説明するパルス発生回路を示す回路図、

図31は、この発明の実施の形態3に係る平面表示パネルの駆動方法を説明する表示セルの制御特性図である。

図32は、この発明の実施の形態3に係る平面表示パネルの駆動方法を説明する階調表示制御のタイミング図である。

発明を実施するための最良の形態
実施の形態1.

図1はこの発明の実施の形態1に係る平面表示パネルの全体を示す概略構成図である。

図1に示すように、本実施の形態に係る平面表示パネルとしてのカラーフラットパネルは、表示部と駆動部が一体となった取り扱いが容易な表示パネルで、64ドットの表示パネルAが4枚で成る256ドット表示ユニットを基準とし、各表示パネルの裏面側には端子変換基板B及び個別電極駆動回路Cが設けられ、これら4枚の表示パネルAに対しパルス回路/信号処理回路Dが設けられる。

図2と図3は上記表示パネルを構成する第1の透明基板としてのフロントガラス基板と第2の基板としてのバックガラス基板上の構成を示すそれぞれ部分斜視図であり、さらに、図4は図3のa-a'線断面図、図5はバックガラス基板上の排気溝を示す構造図である。

図2の(a)に示すように、フロントガラス基板1上には、表示画面を構成する全表示セルを一括または任意の表示セルを部分的に駆動するための共通電極2と、表示画面を構成する表示セル1セル毎に個別駆動するための個別電極3との一対の電極が複数併設されて電極群を構成している。

また、これら一対の電極を被覆して成る誘電体層4及び保護膜層5が設けられており、表示画面を構成する表示セル間の位置に対応する個別電極3の上には、電極取り出し用のリードピン6が立設されている。なお、3bは個別電極3の母電極3a及び共通電極2に接続されている透明電極である。

また、図2の(b)に示すように、フロントガラス基板1上には、個別電極3のリードピン6と同様に、表示セル間の位置に対応する共通電極2の上に電極取り出し用のリードピン7が立設されており、これらリードピン6と7は、上記共通電極2及び上記個別電極3の母電極材料と同じ金属材料を主成分とするペーストまたはロウ材により上記共通電極2及び上記個別電極3の母電極に

融着している。なお、共通電極のリードピンの取り出し部付近を示す図2の(b)において、破線部分は誘電体層4下の電極パターンを示す。

一方、図3及び図4に示すように、上記フロントガラス基板1上に設けられた上記共通電極2及び個別電極3が対向するバックガラス基板10の対応部分には、矩形であり所望の深さを有する凹部11がそれぞれ刻設されて各表示セルの放電空間を形成しており、該凹部11の底面には白色ガラスまたは金属でなる反射層(図示せず)を介して赤、緑、青の蛍光体層12a, 12b, 12cが塗布されている。また、このバックガラス基板10には、上記リードピン6及び7と対向する位置に上記リードピン6及び7を表示画面の背面側に引き出すための電極取り出し用スルーホール13が刻設されている。

また、上記凹部11の深さTは、放電に関与する1表示セル内の共通電極と個別電極との間隙tが通常 $100\mu\text{m}$ であるのに対し、3倍以上の $300\sim 600\mu\text{m}$ 程刻設され、放電空間の厚みを厚くして輝度を上げるようにしている。

さらに、図5に示すように、バックガラス基板10に刻設された凹部11によって形成される各表示セルの放電空間の間には排気溝14が設けられ、バックガラス基板に形成される後述する排気用スルーホールと連通されており、真空排気時の不純ガスの経路を確保できるようにしている。

上記の如く構成されたフロントガラス基板1とバックガラス基板10は、フロントガラス基板1上に立設したリードピンをバックガラス基板10のスルーホールを経て外部に延出させるべく嵌め合わせ表示パネルを組み立てて封止するが、このとき、図6に示すように、リードピン6を、電極に融着される下端部6aを細長い先端部6bより大径にし、電極取り出し用スルーホール13を、上記リードピン6の下端部6aが嵌挿される大径部13aと、上記リードピン6の先端部6bが延出される小径部13bとの2段である段差形状とすることにより、リードピン6の位置合わせとフロントガラス基板1とバックガラス基板10の無用なギャップの発生を防ぐようにしている。なお、ピンリード7も同様な形状でなる。

また、図7に示すように、上記フロントガラス基板1のリードピン6の融着部付近に、上記フロントガラス基板1とバックガラス基板10の封止時に封止材の表示セルへの流入を防止する封着用ガード15を設けることにより、封止材の放電セルへの流入を防止できるようにすることができる。

次に、上記の如く構成を有する平面表示パネルの製造方法について説明する。

図8ないし図11は平面表示パネルの製造工程図を示し、図8と図9はフロントガラス基板1の製造工程図、図10はバックガラス基板10の製造工程図、図11はフロントガラス基板1とバックガラス基板10を嵌め合わせて表

示パネルを組み立て封止する最終工程図である。

フロントガラス基板 1 部の製造工程を図 8 及び図 9 を参照して説明する。

まず、図 8 の (a) に示すように、全面に個別電極の透明電極部が設けられたフロントガラス基板 1 に対し、エッチング工程を経て透明電極のパターニングを行い図 8 の (b) に示す如く透明電極パターンを形成する。

その後、図 8 の (c) に示す如くスクリーン印刷法により共通電極 2 及び個別電極 3 の母電極を形成する。

さらに、続く図 9 の (d) に示すように、共通電極 2 及び個別電極 3 上に、スクリーン印刷法により共通電極 2 及び個別電極 3 の電極取り出し用窓が設けられた絶縁体で成る誘電体層 4 を被覆する。

その後、図 9 の (e) に示す如く、電極取り出し用窓を介して共通電極及び個別電極上にリードピン 6 及び 7 を立設し、その後、さらに真空蒸着法により保護膜 5 を形成する。

また、バックガラス基板 10 部の製造工程を図 10 を参照して説明する。

まず、図 10 の (a) に示すバックガラス基板 10 に対し、図 10 の (b) に示すように、サンドブラストにより、該ガラス基板上に表示画面を構成する各表示セルの放電空間を形成するための凹部 11 と、上記共通電極 2 及び上記個別電極 3 上に立設されるリードピン 6 及び 7 を表示画面の背面側に引き出す電極取り出し用スルーホール 13a 及び 13b と上記排気溝 14 に連通する排気用スルーホール 15 を刻設する。

そして、図 10 の (c) に示すように、スクリーン印刷法を利用して表示セルを形成する各凹部 11 の底面に白色ガラスまたは金属でなる反射層 (図示せず) を介して赤、緑、青の蛍光体層 12a, 12b, 12c を形成する。

次に、このようにして構成されたフロントガラス基板 1 部とバックガラス基板 10 部は、図 11 の (a) に示すように、フロントガラス基板 1 のリードピン 6 及び 7 をバックガラス基板 10 のスルーホール 13 を経て外部に延出させるべく嵌合させてパネルを組み立て、組み立てられたこれら基板は、図 11 の (b) に示すように、フリットガラスが塗布されて封着されて封止層 16 が形成され表示パネルが形成される。なお、17 は排気用ガラス管である。

従って、上記実施の形態 1 によれば、第 1 の透明基板と、この第 1 の透明基板上に設けられた一対の電極と、上記一対の電極と対向する部分に凹部が設けられて表示セルの放電空間を形成する第 2 の基板とを備えたので、表示パネルの 1 表示セル毎に個別駆動が可能であり、かつ平面厚さを薄くすることができる放電空間の構造を有する平面表示パネルを得ることができる。

また、上記第 1 の透明基板上に設けられた一対の電極は、上記第 1 の透明基板上に複数併設されて電極群を構成したので、複数の放電セルの電極構成を容易に形成することができる。

また、上記凹部は、矩形でない所望の深さを有することにより、放電空間を区画するための隔壁を設けることなしに、かつ電極形成に関係なく放電空間を直接形成して、表示パネルの平面厚さを薄くすることができる。

また、上記凹部は、300~600 μm の範囲の深さを有することにより、放電空間の厚みを厚くして輝度を上げることができる。

また、上記第 1 の透明基板上に設けられて上記一対の電極を被覆する誘電体層を設けたので、外部への電荷の拡散を防いで電荷を放電セル内に閉じ込めることができる。

また、上記第 2 の基板の上記凹部の底面に蛍光体層を設けたことにより、カラー表示を容易に行うことができ、均一な輝度を得て映像の均一性を得ることができる。

また、上記第 2 の基板の上記凹部の底面と上記蛍光体層との間に反射層を設けたことにより、蛍光体の発光を前面に出すことができる。

また、上記一対の電極は、上記第 1 の透明基板上に設けられて表示画面を構成する全表示セルを一括または任意の複数の表示セルを部分的に同時駆動する共通電極と、上記第 1 の透明基板上に設けられて表示画面を構成する表示セル 1 セル毎に個別駆動する個別電極とを有することにより、表示パネルの 1 表示セル毎に個別駆動が可能であり、かつ平面厚さを薄くすることができる電極構造を有する平面表示パネルが得られる。

また、上記第 2 の基板に形成される凹部の深さは、放電に関与する 1 表示セル内の共通電極と個別電極との間隙の 3 倍以上とすることにより、放電空間の厚みを厚くして輝度を上げることができる。

また、上記第 2 の基板に形成される各表示セル間に排気溝を設けると共に、上記第 2 の基板に上記排気溝と連通される排気用スルーホールを設けることにより、真空排気時の不純ガスの経路を確保できる。

また、上記第 1 の透明基板上の表示画面を構成する表示セル間の位置に設けられる上記共通電極及び上記個別電極上にリードピンを立設すると共に、上記第 2 の基板の上記リードピンと対向する位置に上記リードピンを表示画面の背面側に引き出す電極取り出し用スルーホールを設けたので、電極を表示画面の背面側に容易に引き出すことができる。

また、上記リードピンは、上記共通電極及び上記個別電極の母電極材料と同じ金属材料を主成分とするペーストまたはロウ材により上記共通電極及び上記個別電極の母電極に融着したので、リードピンを電極上に強固に形成することができる。

また、上記リードピンは、電極に融着される大径の下端部を有し、上記電極取り出し用スルーホールは、上記リードピンの下端部が嵌挿される大径部と、上記リードピンの先端部が延出される小径部とでなる段差形状を有

13

することにより、リードピンの位置合わせを容易に行うことができると共に第1と第2のガラス基板の無用なギャップの発生を防止することができる。

また、上記リードピンの融着部付近に、上記第1と第2の基板の封止時に封着用ガードを設けることにより、封止材の表示セルへの流入を防止することができる。

また、この実施の形態1によれば第1の透明基板上に個別電極の透明電極をパターンニングする工程と、該透明電極が形成された第1の透明基板上に個別電極と共通電極の母電極を形成する工程と、上記第1の透明基板の個別電極と共通電極を被覆する誘電体層を形成する工程と、上記誘電体層の電極取り出し窓を介して上記個別電極と上記共通電極上にリードピンを立設するピン組み立て工程と、ピン組み立て工程を経た第1の透明基板上に保護膜を形成する工程とを有すると共に、上記第2の基板上に表示画面を構成する各表示セルの放電空間を形成するための凹部と上記共通電極及び上記個別電極上に立設されるリードピンを表示画面の背面側に引き出す電極取り出し用スルーホール及び排気用スルーホールを刻設する工程と、上記表示セルを形成する各凹部の底面に蛍光体層を形成する工程とを有し、かつこれら工程を経た第1の透明基板のリードピンを第2の基板のスルーホールを経て外部に延出させるべく第1と第2の基板を嵌合させてパネルを組み立てる工程と、組み立てられた第1と第2の基板を封着する工程とを有することにより、表示パネルの1表示セル毎に個別駆動が可能であり、かつ平面厚さを薄くすることができる電極構造を有する平面表示パネルを容易に製造することができる。

実施の形態2.

上記実施の形態1によれば、フロントガラス基板1とバックガラス基板10は、フロントガラス基板1のリードピン6及び7をバックガラス基板10のスルーホール13を経て外部に延出させるべく嵌合させてパネルを組み立て、組み立てられたこれら基板は、フリットガラスが塗布されて封着され封止層16が形成され表示パネルが形成されて、表示パネルの1表示セル毎に個別駆動が可能であり、かつ平面厚さを薄くすることができる電極構造を有する平面表示パネルが得られるが、この実施の形態2では、上述した如く電極構造を有する平面表示パネルを駆動制御する制御装置について詳細に説明する。

図12は各表示セルを放電管として表した平面表示パネルの等価回路図である。

図12に示すように、平面表示パネルは、1画素に対応する1表示セルとして、赤、緑、青の蛍光体層を塗布した3つのセル単位であり、それら1表示セルが複数備えられてなり、各セルの共通電極2には共通電極駆動部20からの同一駆動波形のパルスが供給され、各個別電極3としての個別電極 R_{nm} , G_{nm} , B_{nm} (n, m は自然数)には個別電極駆動部21からそれぞれ個別の駆動波形のパルスが供給されるようになっている。

14

なお、共通電極は1パネルを一括駆動する場合は同一駆動波形で各セルを駆動する。また、1表示パネルを複数のブロック毎に分割した共通電極を用いる場合には同一駆動波形または表示駆動部の位相を分割毎にシフトさせた駆動波形で駆動する。

図13は上記共通電極駆動部20及び上記個別電極駆動部21でなる駆動回路のブロック構成図を示すもので、2画素6セルを駆動する場合を示すものである。

図13に示すように、各セルの共通電極2に接続されて駆動パルスを供給する共通電極駆動部20の構成としては、電源350Vに接続されたオープンドレインのFETでなるスイッチング素子Q1と、200Vの電圧が印加されるダイオードD1と、特性の等しいFETを対称的に接続してなるプッシュプル駆動型のスイッチング素子Q2及びQ3とでなるスイッチング制御部20aと、これら各スイッチング素子Q1~Q3のゲートに制御パルスを供給する共通電極側制御パルス供給部20bとを備えている。

また、個別電極駆動部21の構成としては、個別電極3としての各個別電極 R_{11} , G_{11} , B_{11} , R_{21} , G_{21} , B_{21} 毎に、電源200Vと接地端GNDとの間に接続された特性の等しいFETを対称的に接続してなるプッシュプル駆動型のスイッチング素子 Q_{R11a} と Q_{R11b} , Q_{G11a} と Q_{G11b} , Q_{B11a} と Q_{B11b} , Q_{R21a} と Q_{R21b} , Q_{G21a} と Q_{G21b} , Q_{B21a} と Q_{B21b} でなるスイッチング制御部21aと、これら各スイッチング素子のゲートに制御パルスを供給する個別電極側制御パルス供給部21bとを備えている。

図14は上述した駆動回路による輝度階調の表示のための各電極への駆動波形を示すものである。

基本的に、本表示パネルは、入力パルスに対して2値動作(表示する/表示しない)の2つの状態しか取り得ない。従って、パルス自体の強弱により輝度を変化させることはできない。表示は連続した表示維持パルスを印加することによって行い、輝度の変化(階調)は共通電極に印加するパルス—パルス間の期間内に挿入され個別電極に単位時間内に印加するパルスの数によって制御する。

図14に示すように、共通電極2に対しては、制御パルス供給部20bからのパルス供給により、スイッチング素子Q1とQ2をONさせスイッチング素子Q3をOFFさせることで350Vのプライミングパルスを供給して放電を開始させ、それ以降は、スイッチング素子Q1をOFFさせスイッチング素子Q2とQ3をON/OFFさせることで200Vに低下させた表示維持パルスを供給する。

個別電極に対しては、1シーケンス内のパルス数を決め、全パルスが個別電極に印加された場合に最高輝度、個別電極に印加するパルス数を減らしていくことによりその個別電極で駆動されているセルの輝度を低下させる。

例えば、個別電極 R_{11} に対しては127回のパルスを供給することで127階調の輝度を、個別電極 G_{11} に対しては n

階調の場合に n 回のパルス进行供給することで最高輝度を、個別電極B11に対しては1回のパルスを供給することで最も暗い絵の場合の1階調を、個別電極R21に対してはパルスの供給を停止させて非点灯状態とし、同様に、個別電極G21に対しては127回のパルスを供給することで127階調の輝度を、個別電極B21に対しては1回のパルスを供給することで1階調の輝度をそれぞれ制御することができる。

従って、個別電極の働きは、表示期間中に放電表示を維持することが可能な階調数に応じたパルスを印加し、非表示期間に維持パルスの印加を停止する制御を行う。なお、個別電極にパルス入力が行われた次の共通電極のパルスまで発光表示が行われ、個別電極へのパルス印加停止後は共通電極にパルスが入力されても発光が発生しない。

また、図15は図13に示す駆動回路の変形例を示すものである。

図15に示す駆動回路は、図13に示す駆動回路に対し、スイッチング制御部の構成が異なる。すなわち、スイッチング制御部として、電源200Vと接地端GNDとの間に接続された特性の等しいFETを対称的に接続してなるプッシュプル駆動型のスイッチング素子でなる個別電極駆動スイッチ部21aaの他に、電源200Vと接地端GNDとの間に接続された特性の等しいFETを対称的に接続してなるプッシュプル駆動型のスイッチング素子でなる一括駆動スイッチ部21abと、個別電極駆動スイッチ部21aaと一括駆動スイッチ部21abの各一對のFETの接続点間にそれぞれ設けられたダイオードの逆並列接続体群21acとを備えている。

図16は上述した図15に示す駆動回路による輝度階調の表示のための各電極への駆動波形の説明図を示すものである。

放電表示を行うためには、維持パルスを印加した後、次回の放電表示を助けるために一定期間の電圧維持時間を必要とする。この電圧維持を行わずにパルスを切った場合、次回の放電発光が抑制される。

この現象を利用し、駆動回路により、個別電極に比較的幅広の維持パルスを印加する波形と比較的幅狭の短い時間の維持パルス（消去パルス）を印加する場合の制御を行うことで階調表示を行うことができる。

すなわち、図16の（a）に示すように、最高輝度時には個別電極（個別電極G11の波形参照）へは幅の広いパルスが個別電極に印加する全パルスに対して与えられるが、中間輝度のセルに対してはシーケンスの途中から細幅の消去パルスが個別電極（個別電極R11、G21の波形参照）に与えられる。

このことにより、幅狭の消去パルスが印加された期間は放電表示が行われなくなる。この結果、表示輝度が低下し中間の輝度が達成される。なお、個別電極に適切な細い幅のパルスを印加することで共通電極のパルスでは

発光を発生できなくすることが可能である。

ここで、図16の（a）に部分的に拡大して示すように、比較的幅広の維持パルスとは期間IとIIの幅を有し、また、比較的幅狭の維持パルスとは期間Iの幅を有する。さらに、これら期間IとII、比較的幅広の維持パルスと比較的幅狭の維持パルスとの間の期間III、比較的幅狭の維持パルス印加後の期間IVは、図16の（b）に示すように、一括駆動スイッチ21abと個別電極駆動スイッチ部21aaをスイッチング制御することにより達成される。

例えば期間Iは、一括駆動スイッチ部21abのハイサイド側FETがON、ローサイド側FETがOFFに制御され、個別電極駆動スイッチ部21aaのハイサイド側FETがOFF、ローサイド側FETがOFFに制御される。また、期間IIは、一括駆動スイッチ部21abのハイサイド側FETがOFF、ローサイド側FETがOFFに制御され、個別電極駆動スイッチ部21aaのハイサイド側FETがON、ローサイド側FETがOFFに制御される。さらに、期間III及びIVは同様にして図16の（b）のように制御される。

次に、図17は平面表示パネルのシステム構成図である。

図17に示すように、 8×8 ドットの表示ユニットを4つ組み合わせてなる表示モジュール30を構成要素として表示部を構成し、各表示モジュール30は列方向（走査線方向）に沿って配列されたもの同士が映像信号、制御信号を共有し、カスケード接続されてなる。

また、電源40はそれぞれ表示モジュール30毎に並列供給されることにより表示モジュール30間で電圧降下が生じないように並列接続される。

図18はカスケード接続された各表示モジュールの駆動回路に制御信号を与える信号処理回路を示す構成図である。

図18に示される信号処理回路50は、固有のアドレス情報を記憶してなるモジュールアドレス情報記憶部51と、入力されるデータをスルーさせると共に上記固有アドレスとデータ中の表示有効信号の位置から自己が表示するデータを取り出すための入力信号制御／表示制御部52と、上記入力信号制御／表示制御部52からスルーされたデータをカスケード接続された隣接する表示モジュールに出力させるためのスルーデータ出力バッファ53と、書き込み制御信号に基づいて上記入力信号制御／表示制御部52により取り出されたデータを書き込むと共に読み出し制御信号に基づいてデータの読み出しを行うメモリ54と、上記入力信号制御／表示制御部52により取り出されたデータに基づいて共通電極及び個別電極駆動パルスを生成する表示用パルス生成器55と、表示用パルス生成器55から出力される共通電極駆動パルスをカウントするパルスカウンタ56と、パルスカウンタ56によりカウントされたパルス数を階調データに数値変換するためのルックアップテーブル57と、ルックアップテーブル57を介し

た階調データとメモリ54から読み出された個別電極駆動用表示データとの比較に基づいて個別電極の制御データを出力する表示データ生成器58と、表示用パルス生成器55及び表示データ生成器58の出力を個別電極駆動回路及び共通電極駆動回路に出力する出力バッファ59と、上記表示用パルス生成器55にクロックを与えるクロック生成器60とを備えている。なお、DATA (R)、DATA (G)、DATA (B) はそれぞれ8ビットでなるRGBデータ、Vsyncは垂直同期信号、Hsyncは水平同期信号、DENBはデータイネーブル信号、DCLKは同期信号を示す。

カスケード接続された横並びの各表示モジュール30は、それぞれ別々の固有のモジュールアドレスがモジュールアドレス情報記憶部51にあらかじめ付与されている。また、表示及び表示制御用の信号は隣接する表示モジュールからスルー出力されており、このスルーされたデータ信号が入力信号制御／表示制御部52に供給される。

入力信号制御／表示制御部52は、図19に示すように、固有アドレスデータとデータ中の表示有効信号 (DATA、ENB) 及び垂直、水平同期信号から自表示モジュールが

表示するデータのスタート位置を計算しこの位置から表示データをサンプリングしメモリ54に保存する。

具体的には、まず、垂直、水平方向の自モジュール位置を固有アドレス情報により見出す。これは表示モジュールが垂直、水平方向に対してどの位置に配置されているかという情報を固有アドレスが持つことにより実現され、固有アドレスの水平方向位置、垂直方向位置は固有アドレスのそれぞれの位置情報を表示モジュールの画素数に対応する16で乗算した数値である。

水平位置方向は水平同期信号入力後ENBが有効になった時点からのどっとクロックをカウントし、固有アドレスに定められた位置 (カウント値) までデータをスルーし、所定位置に達したクロックから16画素分のデータをサンプリングした後、以降のデータを再びスルーする。

垂直方向位置に対しても水平位置情報と同様に垂直同期信号の入力で垂直方向のラインカウンタをリセットし、データの有効信号 (ENB) が入力されたラインをカウントする。このカウント値が固有アドレスに定められた位置 (カウンタ値) までデータをスルーし、所定位置に達したクロックから16画素分のデータをサンプリングした後、以降のデータを再びスルーする。

この水平方向、垂直方向の処理を組み合わせることにより、表示モジュールが表示する表示データ中の16×16画素分のデータをメモリ54に書き込むこととする。このメモリ54は2段構成となっており、外部からの表示信号を書き込むメモリ部と表示の際に読み出しを行うメモリ部とをもつ。通常は、2つのメモリセルは書き込み、読み出しを表示の切り換え時の同期信号に合わせて交互にそれぞれの役目を交代する。

図18に示す構成によれば、各表示ユニットに固有のア

ドレスを付与することで、表示ユニットを組み合わせた際、個々の表示ユニットの位置情報とすることができ、入力される表示データ、同期データより自己の表示モジュールの表示すべきデータを記憶し、そのデータに基づいて表示制御を行うことが可能となると共に、個々の表示モジュールの識別が可能となる。このことにより、データバスを通じて表示モジュールの固有アドレスと制御データを搬送することで指定された表示モジュールのみが制御データを受け取ることが可能となり、各モジュールの制御が固有アドレスに定められた位置 (カウント値) までデータをスルーし、所定位置に達したクロックから16画素分のデータをサンプリングした後、以降のデータを再びスルーすることが可能となる。

この表示制御の例としては、表示データのブランキング期間 (データ無効時間) に表示モジュールの固有アドレスと表示データを入力することにより、例えば各モジュール間の輝度ばらつきを個々に補正するデータをモジュールに設定することが可能になり、均一な表示とするための調整作業の簡素化やメンテナンスの容易化が可能となる。

図20の (a) と (b) は、上記パルスカウンタ56とルックアップテーブル57及び表示データ生成部58により個別電極制御を行うための階調データ作成に係る階調表示処理を説明するブロック図とフローチャートである。

外部より表示モジュール内に展開される映像データは各色256階調 (1670万色) の場合、赤 (R)、緑

(G)、青 (B) データともに8ビットの2進データとして入力される。このデータは、表示モジュールの階調表現とは異なるためにデータのフォーマット変換を行う必要がある。表示モジュールでの階調表現のフォーマットは維持パルスの数によって表現される。従って、入力された2進フォーマットのデータをパルス数に変換する必要がある。

しかし、通常、1シーケンスに入力される維持パルス数は、256パルスであるとは限らないため、2進映像データの大きさのみで表示データとすることはできない。このため、維持パルスを数えるパルスカウンタ56と2進映像データの大小比較時に数値変換のためのルックアップテーブル57を必要とする。

ルックアップテーブル57は、入力されたデータに対して一定の規則性をもった大きさのデータを出力するように構成される。

図21はルックアップテーブル57の入出力特性を示すもので、カウンタ56から出力される維持パルスの10ビット (1024) の入力に対して0～255の値を昇順になるように割り当てている。その入出力特性は、維持パルス数、出力値ともに整数値であるため、とびとびの階段状のグラフとなり、このグラフの入出力曲線を変化させることで出力値に任意の維持パルス数を割り振ることが可能となる。

入力に対して出力を自由に变化させることが可能なルックアップテーブル57を用いることで、映像入力データと維持パルス数の大小関係の関連付けを行うことができ、1階調当たりの維持パルス数を制御し、表示セルの輝度の変調を行うことができる。

すなわち、表示データ生成部58を、図20の(a)に示すように、8ビットコンパレータ58R、58G、58Bで構成し、例えば放電表示を伴う維持パルス印加時には、個別電極の制御データを“1”(表示パルス出力)、非表示状態とする制御を行う場合のデータを“0”(非表示状態)とすると、表示データ生成部58は、図20の(b)に示すように、カウンタリセット(垂直同期入力に同期)に基づいて表示用パルス生成器55から出力される共通電極駆動パルスをカウントアップした10ビットカウンタでなるパルスカウンタ56の出力をルックアップテーブル57で変換した値f(維持パルスカウント数)と表示映像データとの比較として、

$f \leq$ 表示映像データの時はデータ“1”

$f >$ 表示映像データの時はデータ“0”

を求める。この比較演算は、表示モジュールのセル分繰り返され、個別電極へ与える各パルス毎に全表示データに対して行われ、図21に示す個別電極をスイッチング制御するための制御パルス供給部に転送されることにより、次の個別電極のパルスの有無、パルス形状、電圧値などに反映される。

この制御により入力映像データに応じた輝度を各セルに対して表示可能にしている。

従って、上記実施の形態2によれば、表示画面を構成する全表示セルを一括または任意の表示セルを部分的に駆動する共通電極と、表示セル1セル毎に個別駆動する個別電極とを備えた平面表示機に対し、上記個別電極に単位時間内に印加するパルスの数によって輝度を変化させて階調表示する駆動回路を備えたので、表示セル毎に独立した電極に対して個々にスイッチング制御して階調制御することができる。

また、上記駆動回路は、上記個別電極に単位時間内に印加するパルスとして、比較的幅広の維持パルスと比較的幅狭の消去パルスの印加の制御に基づいて階調表示するようにしたので、消去パルスが印加された期間は放電表示を停止させることができ、階調表示を行うことができる。

また、上記平面表示パネルは、複数の表示パネルを行列配置して組み合わせた表示モジュールを構成要素とし、列方向に配列された表示モジュールがカスケード接続され、かつ各表示モジュールが電源に対して並列接続されてなり、各表示モジュールの駆動回路に制御信号を与える信号処理回路として、固有アドレス情報を記憶してなるアドレス情報記憶部と、入力されるデータをスルーさせると共に上記固有アドレスとデータ中の表示有効信号の位置から自己が表示するデータを取り出すための

入力信号制御部と、上記入力信号制御部からスルーされたデータをカスケード接続された隣接する表示モジュールに出力させるためのスルーデータ出力バッファと、書き込み制御信号に基づいて上記入力信号制御部により取り出されたデータを書き込むと共に読み出し制御信号に基づいてデータの読み出しを行うメモリと、上記入力信号制御部により取り出されたデータに基づいて共通電極及び個別電極駆動パルスを生成する表示用パルス生成器と、上記表示用パルス生成器から出力される共通電極駆動パルスをカウントするカウンタと、上記カウンタによりカウントされたパルス数を階調データに数値変換するためのルックアップテーブルと、上記ルックアップテーブルを介した階調データと上記メモリから読み出された個別電極駆動用表示データとの比較に基づいて個別電極の制御データを出力する表示データ生成器と、上記表示用パルス生成器及び上記表示データ生成器の出力を個別電極駆動回路及び共通電極駆動回路に出力する出力バッファとを備えたので、表示モジュールを組み合わせた際のデータ制御を行う場合に、各表示モジュールのアドレスに対応する表示データを取り込み、データに応じた個別制御が可能になる。

実施の形態3.

次に、この実施の形態3では、実施の形態1により説明された電極構造を有する平面表示パネルの駆動方法について説明する。

この実施の形態3では、表示画素を $10 \times 10 \text{ mm}^2$ とし、表示セルの大きさは $3 \times 9 \text{ mm}^2$ 、共通電極2—個別電極3間の電極ギャップを $100 \mu\text{m}$ とし、さらに、放電ガス(Ne-Xe(5%))500Torrを放電空間の高さ $600 \mu\text{m}$ 中に封止している。

図22は図13に示す個別電極駆動部21の制御パルス供給部21bの内部構成をさらに詳細に示している。また、図23は平面表示パネルを駆動するための駆動シーケンスの一例を示している。

本平面表示パネルは、図12のように構成されているため、1対の共通電極駆動回路と表示セル数分の個別電極駆動回路が必要となる。

次に動作について説明する。

通常、放電を用いた平面表示パネルでは、図24に示すように、1対の電極、ここでは、共通電極とそれに同一面内で対向する1つの個別電極に交互に高電圧パルスを印加し、放電セルの絶縁体上に蓄積される壁電荷を用いて放電を維持させる。

しかし、この方法では、表示制御を行うためには、表示時に共通電極と同じ周波数の高電圧パルスを個別電極に印加しなければならない、個別電極の負荷が大きくなるために、共通電極の駆動と同程度の駆動素子が必要となる。

また、共通電極のみに放電用の高電圧パルスを印加した場合には、図25に示すように、いずれかの共通電極に

印加される電圧パルスで発生した放電により壁電荷が蓄積され、外部から印加する電圧を弱めるように作用する。このため、以降の電圧パルスでは各表示セル内での電圧は放電開始電圧に到達せず、つまり1回目の放電で発生した壁電位でパルスの電圧が負方向へクランプされ、放電開始電圧を越えなくなり、高電圧パルスを印加しているにも拘わらず放電が停止する。なお、放電開始電圧に到達した場合は、放電発光を発生するが、さらに壁電荷が蓄積され、外部の電圧を弱める方向に作用する。

このような状況において、放電表示を維持するために、以下の駆動方法を採用した。

まず、前述した共通電極への電圧パルス印加のみで放電が終了する現象に対して、図23に示すように、初期化パルスとして、共通電極への印加パルスの次に、全個別電極に放電維持電圧以上の波高値を持つ電圧V3のパルス入力を行う。

本実施の形態3では、 $V3=160V$ としたが、最低放電維持電圧（約130V）以上で、かつ放電開始電圧（約220V）以下の電圧であればよい。

また、個別電極への印加パルスのパルス幅 $t5$ は、放電遅れおよび壁電荷の蓄積時間を考慮して 3μ 秒以上とし、パルス幅の上限はシーケンス全体の時間配分からのみ規定され、 10μ 秒とした。

このようにすることで、共通電極への電圧印加で発生した放電により蓄積され、共通電極に印加される電圧を弱体化させる壁電荷を利用し、個別電極への電圧パルスで逆極性の壁電荷（共通電極に印加される電圧を補強する）を蓄積する作用を持たせることが可能となり、次回の共通電極への電圧パルス印加で確実に放電が開始するようになる。

初期化パルスに対して、図26に示すように、通常の表示では、この共通電極、個別電極への電圧パルスの組み合わせによる放電は、共通電極への印加パルスで発生するが、共通電極へのパルスで放電が発生しない状態になっている場合には、共通電極への電圧パルスでは放電が発生せず、個別電極へのパルスで放電が発生する。

このような場合には、個別電極での放電により壁電荷が共通電極へのパルスを補強する方向に働くため、次の共通電極へのパルス印加の際に、開始、消去放電が確実に発生するようになる。

この制御により、放電が不安定な領域に移行した表示セルを定期的に初期化可能となり、安定した表示を行うことが可能となった。

表示の輝度は、ある所定期間（約16ms）中に共通電極へ印加する電圧パルスの数により規定され、この期間を1シーケンス期間としているが、本実施の形態3では、1シーケンス当たりの共通電極への電圧パルス印加数を、初期化、放電維持を含めて766回とし、放電安定のための個別電極への電圧パルスの印加は、図23に示すよ

うに、共通電極へ印加する電圧パルスと組み合わせでシーケンスの先頭でシーケンス毎に実施している。

さらに、共通電極への電圧パルス印加で表示放電を発生させるためには、平面表示パネルの表示セルの放電開始電圧よりも十分高い電圧値のパルスを共通電極への印加パルスとすることで、放電開始を確実にすると共に、この放電で発生する壁電荷を十分大きくし、壁電荷により逆極性の放電開始電圧を保有するようにし、共通電極への印加パルスの立ち下げ時に消去放電と呼ばれる壁電荷のみが生成する電圧に起因する放電を発生させる。

この現象により、図27に示すように、共通電極への電圧パルス印加終了後は表示セル内には壁電荷が存在しなくなる。もしくは存在しても非常に微弱な電荷となるために、次回の共通電極への電圧パルス印加時に放電を妨げる効果を持たなくなり、放電が共通電極へ印加する電圧パルス毎に発生するようになる。

以上に述べたような放電を発生させるためには、共通電極に印加する電圧パルスは高電圧となり、波高値が大きくなるため、所定時間内にパルスを立ち上げ、立ち下げするにはパルスエッジを急峻にする必要があり、急峻なエッジを持つパルスを印加する場合には、回路的な難しさおよび放電の制御が難しくなる等の問題が発生する。

このために、共通電極に印加するパルスは2段構成とし、2つの電圧パルスを重畳させた複合電圧パルスの形とし、放電を開始させない1段目のパルスでDC的なバイアスを印加し、2段目のパルスで放電開始電圧以上の電圧を印加することで、放電を発生させる。

この方法により、表示セルに放電開始電圧が印加されてから駆動最高電圧に到達するまでの時間を短縮でき、表示セルの放電遅れ以前に電圧の印加を完了できるようになる。

本実施の形態3では、図27に示すように、第1パルスの立ち上がりから第2パルスの立ち上がりまでの期間 $t1$ は、1段目のパルス発生回路のON時間と第2パルス発生回路のON時間の関係により 1μ 秒以上とする必要があった。

また、放電セルの放電開始電圧が約220Vであることより、図27に示すように、電圧値 $V2$ の第1パルス、電圧値 $V1$ の第2パルスともに、波高値は160Vとし、重畳後の電圧値を $320V$ （ $V1+V2$ ）としている。

第1パルスの波高値は、最低放電維持電圧よりも大きく放電開始電圧よりも小さい範囲から選択する必要があり、重畳された電圧パルスの最高電圧は、表示セルの絶縁層の耐電圧により制限されるために、 $350V$ を超えないようにした。

さらに、第1パルスの波高値に対して第2パルスの波高値を等しいか、もしくは第1パルスの波高値よりも大きくした方が表示に際し効率が良いこと、外部供給の電源数を減らせること、消去放電の確実な発生を保証でき

23

ることより、実施の形態3では、第1パルス及び第2パルスの波高値を共に160V、重畳後の波高値を320Vとした。

この時に印加する最高電圧パルスは、開始放電後に、表示セルに消去放電を発生させるのに十分な壁電荷を蓄積する電圧（320V）に設定しており、かつ図27に示す最高電圧維持期間 t_2 を、壁電荷蓄積の遅れ時間に相当する3 μ 秒以上としているため、最高電圧維持期間 t_2 中に消去放電を発生させるのに十分な壁電荷が蓄積される。

これは、図28に示すように、最高電圧維持期間 t_2 が短い間は放電が成長しないために、十分な輝度が得られず3 μ 秒以上の領域で安定することによる。

また、図27に示す第2パルスの立ち上がりから第1パルスの立ち下がり時間 t_2+t_3 は、10 μ 秒以下とした。

これは、第1パルスの立ち下がりでの消去放電を発生させるために、第2パルスの立ち上がりで蓄積された放電による壁電荷と共に高いエネルギー状態にある放電ガス中の空間電荷を用いて放電を発生しやすくするためである。

これらの制御により、共通電極への第1パルスの立ち下がり時に、壁電荷および空間電荷による消去放電が発生する。この消去放電の際には、共通電極、個別電極ともに0Vに接続されることとなるために、共通電極、個別電極間の電位差はなく、壁電荷は蓄積されない。

この現象により、表示セルの状態は、表示放電を行わない場合と同様な初期状態にリセットされる。この壁電荷の初期化を完全に行うために、共通電極への複合電圧パルスの立ち下がり時から次の複合電圧パルスまでの期間 t_4 を5 μ 秒以上とし、消去放電による壁電荷の消去を完全なものとするので、表示セルの初期化を行っている。

この複合電圧パルス間の時間は、図29に示すように、短い時間範囲では十分な消去放電が発生しないために放電が安定せず輝度が低下し、4～5 μ 秒以上の時間になるほど安定となっていることが判る。

従って、共通電極に印加するパルスの形状は、つまり、図27により規定した各時間配分は、

$$t_1 > 1 \mu \text{秒}$$

$$3 \mu \text{秒} < t_2 \leq 9 \mu \text{秒}$$

$$t_3 > 1 \mu \text{秒}$$

とし、さらに時間制約として

$$t_2 + t_3 < 10 \mu \text{秒}$$

$$t_4 > 5 \mu \text{秒}$$

としている。

ここで、図30に示すように、共通電極に印加する複合電圧パルスの生成は、1段目をプッシュプルスイッチ回路で構成し、2段目はチャージポンプ回路で供給する。

この回路では、2段目の電圧パルス印加に際しては、平面表示パネルの固有負荷容量に対して十分容量の大き

24

なコンデンサCdで充放電を行うが、チャージポンプ側のスイッチ回路はスイッチ回路周辺の寄生容量を駆動するだけで良いのでメインのスイッチング素子ほどの耐電力を持つ必要が無く回路を小型化できる。

また、この回路では、表示パネルの容量へ充電した電荷はメインのスイッチング素子3に並列接続されたダイオードD1を通してほぼ駆動コンデンサCdに回収されるため、電力のロス是最小限に抑えられることとなる。

ここで、この回路の詳細動作について図5により説明する。

第1パルスは、スイッチング素子Q3、Q4の状態により出力電圧がコントロールされ、スイッチング素子Q4がoff、スイッチング素子Q3がonの状態、電圧V2が電極へ印加され、スイッチング素子Q3がoff、スイッチング素子Q4がonで、0V接地となる。

第2パルスは、スイッチング素子Q1、Q2の状態がコンデンサCdを通して電極へ印加されることとなる。

まず、スイッチング素子Q1がoff、スイッチング素子Q2がon時には、コンデンサCdの片端は0Vに接地される。この状態では、コンデンサCdにはダイオードD2を通して充電され、コンデンサCd両端の電位はV2となる。

この状態で、スイッチング素子Q2をoffし、スイッチング素子Q1をonすると、接地されていたコンデンサCdの端子はV1電位となり、コンデンサCdの他端には0V（接地電位）から見ると、（V1+V2）の電圧が発生することとなる。この電位はスイッチング素子Q3を通して共通電極へ供給されることとなる。

従って、共通電極へ印加する電圧波形は以下に示す手順でスイッチング素子をon/offすることで、図23、図27に示すような複合電圧波形となる。

	Q1	Q2	Q3	Q4
①パルス0V（GN）時	off	on	off	on
②1段目パルス立ち上げ時	off	on	off	off
③	off	on	on	off
④2段目パルス立ち上げ時	off	off	on	off
⑤	on	off	on	off
⑥2段目パルス立ち下げ時	off	off	on	off
⑦	off	on	on	off
⑧1段目パルス立ち下げ時	off	on	off	off
⑨	off	on	off	on

なお、各遷移状態時の1つ目の状態は貫通電流を防ぐための中間制御とする。

さらに、個々の状態間の遷移（⑨、④、⑥、⑧）時はプッシュプルに接続されているスイッチング素子に貫通電流が流れないように、0.5 μ 秒程度の期間、この状態とし、パルス期間を決定するのは、①、③、⑤、⑨の期間とする。これらの遷移期間の幅は使用しているスイッチング素子（トランジスタ、FET）により決定されるTurn on, Turn off時間に相当する。

また、この方式をとることにより、第1パルスの生成

回路は、電力の回収回路を付加し、表示セル、パネルの容量負荷分への無効電力を回収する必要があるが、第2パルスのパネル容量負荷に対する充電電流分の電荷は、パルス除去時にスイッチング素子Q3のボディダイオードD1を通してパルス生成コンデンサへ還元されるため、パネルの容量負荷に対する電力消費は発生しなくなるというメリットがある。

そして、この表示セルの表示放電制御は、個別電極に電圧バイアスを印加することによって行った。

図31に示すように、本方式の表示セルでは、共通電極に印加される電圧パルスの波高値に依存する個別電極のDCバイアス値V4によって放電を継続する電圧領域と放電を停止する電圧領域が存在する特性を持つことが判っている。

図31に規定されていない放電の抑制領域の上限は、表示パネルの放電開始電圧であり、本実施の形態3の表示パネルの場合、約220Vであるため、共通電極への複合電圧パルスの波高値が低い方がマージンが得やすい。

共通電極へ印加する電圧値V1, V2を160V (V1+V2:320V) とした場合、放電抑制の制御マージンは約100V、放電維持の制御マージンは60Vと非常に大きくなっている。この特性を利用することで、表示を継続する表示セルには放電領域の電圧を、表示を消す表示セルには放電抑制領域の電圧を個別電極に印加することにより表示のon/off制御が可能となる。

この制御によれば、図23に示すように、個別表示セルの表示のon, offや輝度変更（階調表示）は、対応する個別電極へのDC電圧印加期間を調整するだけで良く、共通電極に印加する複合電圧パルスに対してどの程度マスクする放電抑制領域のDC電圧（V4）印加期間を持つかという制御により、輝度変調（階調表現）が可能となる。

このため、従来の気体放電パネルのように、輝度期間を複数組み合わせることにより輝度変調（階調表示）を行うのではなく、共通電極への複合電圧パルスをマスクする期間の制御により輝度変調（階調表示）を行うこと*

階調 (LUTの比較データ出力)	放電領域電圧印加	放電抑制領域電圧印加
0	0パルス	765パルス
1	3パルス	762パルス
.	.	.
254	762パルス	3パルス
255	765パルス	0パルス

このように、階調数に応じて共通電極へ印加される複合電圧パルス数だけの個別電極への放電抑制領域DC電圧のバイアス領域を設けることにより、個別セルの輝度制御が可能となる。

また、この個別電極への電圧印加の立ち上げ、立ち下げは、図23に示すように、共通電極へ印加する複合電圧パルス間に行うものとした。これは、共通電極へ印加さ

* となり、個別電極への電圧パルス印加の周期は最大2回 / (1シーケンス) となる。従って、数十KHzを超える周波数で駆動される共通電極とは異なり、耐電力の小さな回路を使用可能となり、集積化された駆動回路の使用が可能となった。

ここで、輝度変調（階調表示）は外部から入力される表示データによって行われるが、本実施の形態3の如く、表示を256段階の輝度表示で行うものとする、~770回の共通電極に印加するパルスを相重複する256通りの期間に分割し、入力されるデータにより分割された期間を選択し、表示データに対応する個別電極を通して放電抑制電圧を印加する。この動作により、入力された表示データに応じた輝度を持つ表示を行うことが可能となる。

階調間の輝度差は、階調表示の際に共通電極に印加される発光に寄与する（個別電極に放電抑制電圧が印加されていない）複合電圧パルスの数で生じるために、個別電極に放電維持電圧を印加した期間中の共通電極へ印加する複合電圧パルス数を、階調間、表示セル間で調整することにより、表示入力データに応じたさまざまな階調特性を持たせることが可能となる。

この実施の形態3では、1階調に3複合電圧パルスを割り当てることで、入力データ表示輝度に直線的な相関を持たせ、輝度変調（階調表示）のため、個別電極の制御は、前述したように、個別電極の駆動周波数を下げるためにシーケンス先頭から所定輝度が得られる期間を表示期間とし、それ以降のシーケンス後半部を表示抑制期間とすることで、表示のために駆動される個別電極の周波数はシーケンス（フレーム）周波数と同一とし、非常に低い周波数で駆動制御可能とした。例えば全表示複合電圧パルス数が765の場合、シーケンス先頭の共通電極への印加パルスから順に数えて、階調と放電領域電圧印加パルス及び放電抑制領域電圧印加パルスを次のようにする。

れる複合電圧パルスによって発生する放電現象は1複合電圧パルスで完結されるため、放電の制御を複合電圧パルス中で行った場合、複合電圧パルスで発生する放電が完結しないままに終了するためである。

この立ち上げ、立ち下げの複合電圧パルスとの間隔は表示セル内で発生する放電の時間特性に影響されるが、本実施の形態3の場合、消去放電は約5μ秒程度で収斂

するため、個別電極への電圧印加制御は、この後行うものとし、立ち上げ、立ち下げの際の複合電圧パルスとの時間は、 $t_5 > 5 \mu\text{秒}$ 、 $t_6 > 0.5 \mu\text{秒}$ が必要であった。

また、個別電極への電圧印加制御が共通電極への複合電圧パルスの立ち上げと同期した場合、第1パルスの立ち上げで放電の発生する可能性があり、制御時間配分中、十分な時間を与える必要がある。

本実施の形態3では、以上の共通電極への電圧パルス数、時間定義により、共通電極への印加パルスを

$t_1: 2 \mu\text{秒}$

$t_2: 5 \mu\text{秒}$

$t_3: 2 \mu\text{秒}$

$t_4: 11 \mu\text{秒}$ (ただし初期化シーケンス時 $25 \mu\text{秒}$)

$t_5: 6 \mu\text{秒}$ (初期化シーケンス時個別電極への電圧パルス立ち上がりまで $10 \mu\text{秒}$)

$t_6: 5 \mu\text{秒}$ (初期化シーケンス時個別電極への電圧パルス立ち下がりまで $5 \mu\text{秒}$)

とし、共通電極への複合電圧パルスの平均周波数を約46 KHzとした。

また、これらの階調表現を行うために、個別電極の制御は以下のように行っている。

図20に示す階調表示制御ブロック図及び図32に示すパルスのタイミング図に示すように、入力された映像データは、表示に必要な画素分だけ画像メモリに保存され、表示シーケンス中に読み出される。画像メモリの内容は、表示セルの位置情報に応じた個別電極を駆動するドライバ回路の個々の出力制御部分へ転送される。

この映像データの転送は以下の工程によって行われる。

- 1) . 画像メモリに格納された映像データは駆動ドライバの出力先の画素位置に対応した順番でメモリから読み出される。
- 2) . 読み出されたデータは共通電極に印加された電圧印加パルス数をカウントした値をLUTで変換した比較データと比較され、映像データが比較データと等しいか大きい場合、映像データを“L”データ、映像データが小さくなった場合は“H”データとする。
- 3) . 2) 項の2値化された映像データを個別電極の駆動ICへ転送する。

この繰り返しを共通電極へ電圧パルスを印加するのに先立ってパルス毎に行う。駆動ICに転送された2値化データは、ラッチ信号によって出力され、次のラッチ信号まで状態を保持される。また、このラッチ信号のタイミングで個別電極への電圧印加のタイミングを制御する。

ここで、2値化されて設定された映像データにしたがって個別電極の駆動ICは出力電圧値を決定し、映像データが“L”に設定された出力は放電維持領域の電圧を出力し、映像データが“H”に設定された出力は放電抑制領域の電圧を出力する。

図23に波形例を示しているように、この時のLUTの内容は、前述したシーケンス先頭からの共通電極への複合電圧パルス数から変換された値に変換され、映像データと比較され2値化されているため、映像データが255の時(最大輝度時)は1シーケンス全体で放電維持領域の出力、映像データが0の時は1シーケンス中全て放電抑制領域の電圧出力となる。

本実施の形態3では、放電維持電圧領域の出力として0Vを印加、放電抑制領域の電圧として160Vを印加した。

- 10 この制御により、共通電極に印加するパルス毎に映像データと共通電極印加パルスの数とが常に比較され、放電の維持・抑制の期間が決定される。この結果、1シーケンス中の表示輝度が共通電極への電圧パルス単位で可変可能であり、放電の維持領域が時間的に連続になることで、シーケンス間の輝度情報が相関しあうという現象が発生しなくなる。また、個別電極のスイッチングは最大初期化時と表示制御時の2回となり、スイッチング負荷が小さくなるため、PDP用のドライバICを流用することが可能となりコスト、実装、信頼性面で大きく寄与している。

実施の形態4.

上述した実施の形態3では、表示セル初期化のための複合電圧パルスをシーケンス(表示フレーム)毎に挿入したが、この初期化シーケンスは放電発光を伴うために暗室コントラストを低下させる原因となるため、初期化は複数フレームで1回の割合で挿入しても良く、この場合は表示の安定性を損なわず高暗コントラストの表示が可能となる。

実施の形態5.

また、実施の形態3では、個別電極の波高値として0V~(放電抑制電圧)間のスイッチ動作で放電を制御していたが、個別電極の表示制御時の電圧は表示時0Vである必要はなく、出来る限り放電領域内の高い電圧に設定することで制御のためのスイッチングに要する電圧が低下し、低電圧の駆動回路が使用可能となる。例えば共通電極に印加する複合電圧の第1パルス、第2パルスの電圧波高値を160Vとした場合、個別電極への電圧は、表示の場合50V印加、非表示の場合100V印加で制御可能となる。

この場合は、実施の形態3の動作に対して約1/3分の耐圧を持つ駆動回路で動作可能となり、信頼性、コストで有利となる。

実施の形態6.

また、実施の形態3では、初期化シーケンスの際、共通電極への複合電圧パルスに引き続き全個別電極へのパルス印加を行ったが、表示セルの安定化のためには、個別電極へのパルス印加後に共通電極への複合電圧パルス印加としても良い。この際、初期化の複合電圧パルスは表示放電の1回目のパルスとカウントしても良いため、別途初期化シーケンスを挿入した場合よりもコントラスト

トは得やすくなる。

実施の形態7.

実施の形態3では、階調表示のために放電抑制期間を入力データに対してリニアとしたが、前述したようにリニアに割り振る必要はなく、TV信号等の映像信号規格に対応した γ 値に合わせて輝度変調を行ってもよい。例えば、入力データ（256階調表示の場合）に対して共通電極へのパルス数を765とした場合、

複合電圧パルス数（放電領域のバイアス）

$$= \text{INT} (765 \times (\text{入力データ}/255) 1/\gamma)$$

で示す計算式で計算される複合電圧パルス数（複合電圧パルスが有効な期間）分だけ個別電極を放電領域に保持し、 $(765 - (\text{複合電圧パルス数}))$ 数の期間は放電抑制領域の電圧とする。

このようにすることで、外部にて表示デバイス対応の逆 γ 変換を行う必要がなくなり、高品位な表示が複雑な計算処理を行わずに可能となる。

また、共通電極へ1シーケンス中に印加するパルス数は765とする必要はなく、最低表示に必要とする階調数以上であればよく、放電特性により制限される複合電圧パルスの最高周波数以下の数であれば、上述した計算式のうち765を置き換えれば階調制御の期間が計算される。この計算値をLUTとすることで任意の階調表示が可能となる。

さらに、実施の形態3では、階調表示のための1シーケンスにおける表示期間を先に設け、非表示期間を後にしたが、この順序は逆でもよい。

以上のように、上述した実施の形態3～7で説明した平面表示パネルの駆動方法によれば、共通電極で発生さ*

*せる放電は1つの複合電圧パルスで放電の開始と消去放電による表示セルの初期化が行われるため、表示動作を行わせるための動作マージンが大きく、さらに、一定間隔で全個別電極に表示初期化パルスを挿入することで共通電極を駆動することによる放電が不安定になった場合でも表示を安定に維持できる機能を持つため非常に安定な表示が可能である。

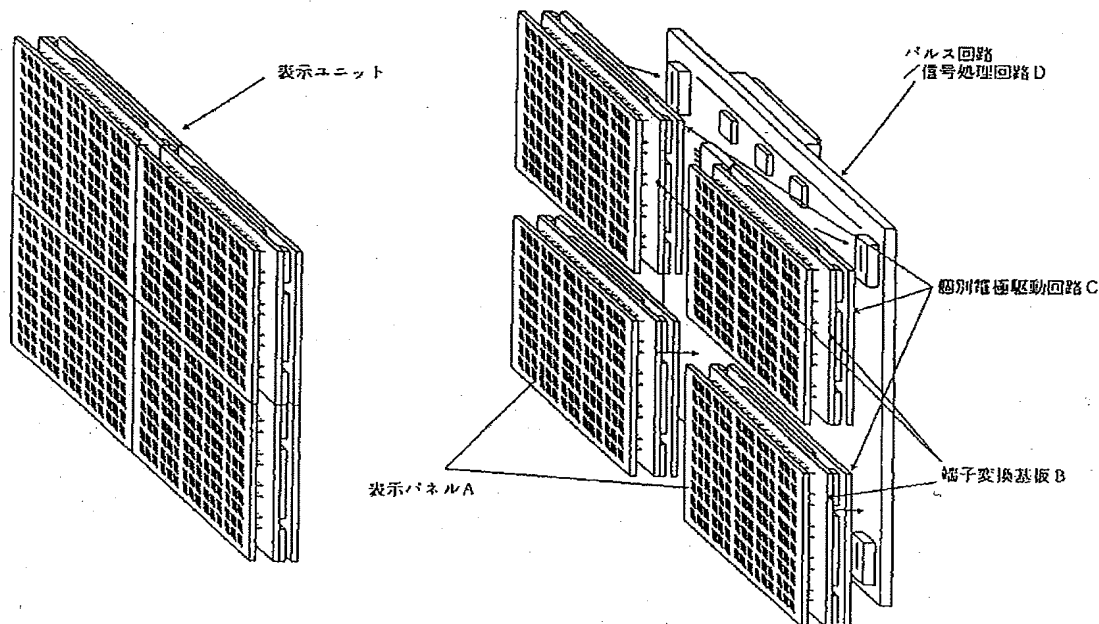
また、共通電極に放電の維持機能を持たせ、全表示セルを一括で駆動でき、表示の制御はより低い周波数で個別電極を駆動することで行うことが可能であるため、回路構成が簡単になり、つまり電力の大きな回路は共通電極駆動に集中でき、個別電極駆動はより低電圧、低消費電力の回路で構成できることになり、安価であり、信頼性の高い平面表示パネルを製造できる。

さらに、階調表示が1シーケンス中で連続的な期間の設定で可能なことより、階調性のある高品位な表示が可能な平面表示パネルを得ることができる。

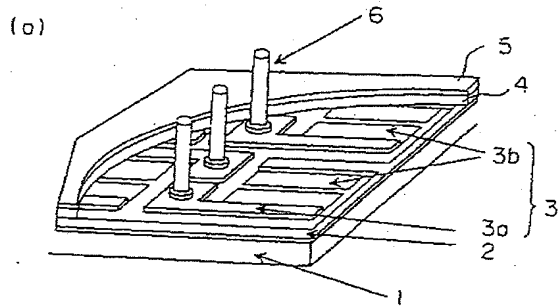
産業上の利用の可能性

以上のように、この発明に係る平面表示パネルとその製造方法及び制御装置並びにその駆動方法は、表示パネルの1表示セル毎に個別駆動が可能であり、かつ平面厚さを薄くすることができる電極構造を有する平面表示パネルを提供することができると共に、表示セル毎に独立した個別電極に対して個々にスイッチング制御して階調制御を行うことができ、さらに、表示動作を行わせるための動作マージンが大きく、かつ安定した表示が可能であり、信頼性の高く、階調性のある高品位な表示が可能な平面表示パネルを提供する。

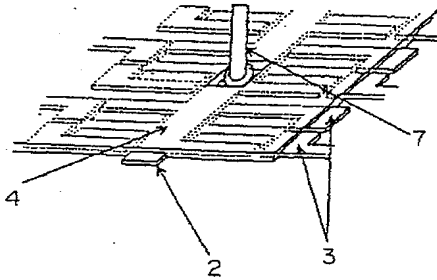
【第1図】



【第2図】

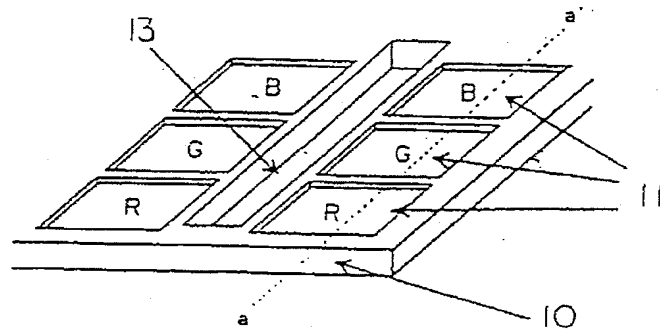


(b)



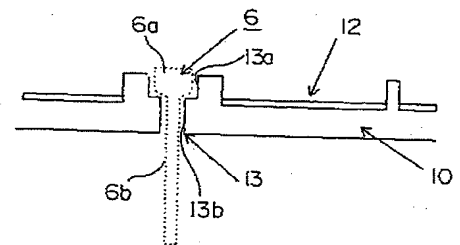
- 1: フロントガラス基板
2: 共通電極
3: 個別電極
4: 誘電体層
5: 保護膜層
6: リードピン

【第3図】

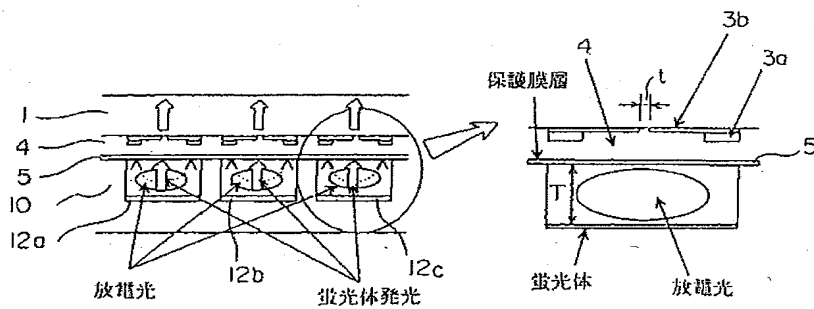


- 10: バックガラス基板
11: 凹部
13: 電極取り出し用
スルーホール

【第6図】

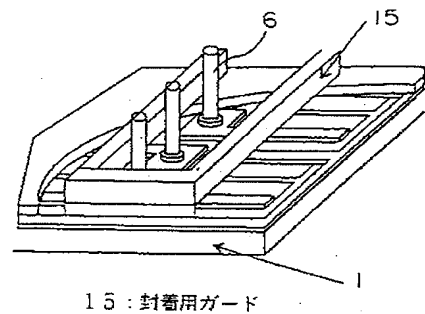


【第4図】



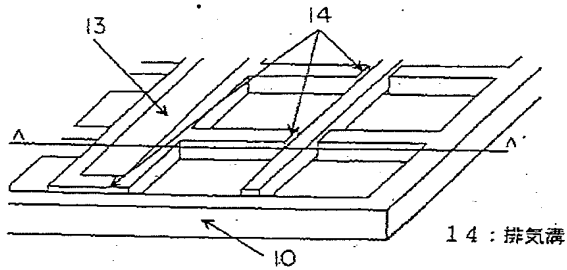
12 (12a~12c): 蛍光体層

【第7図】

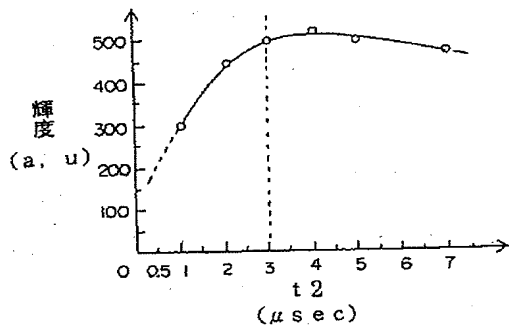


15: 封着用ガード

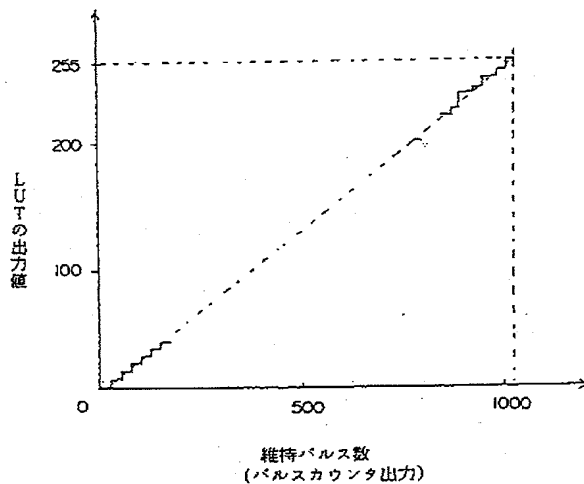
【第5図】



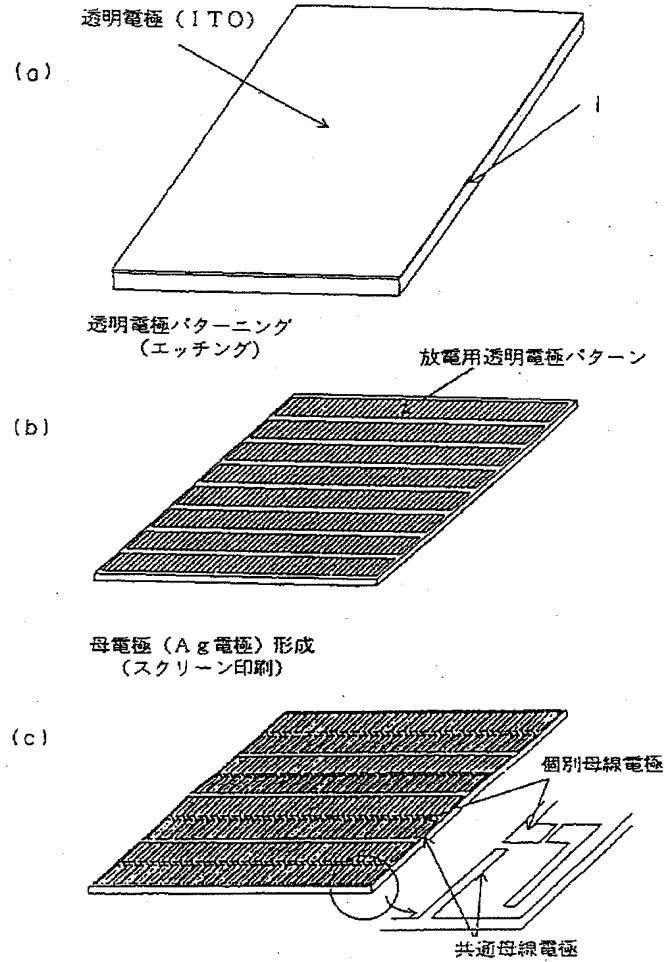
【第28図】



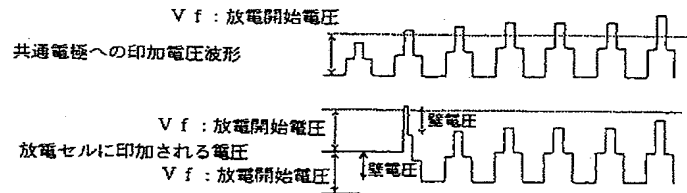
【第21図】



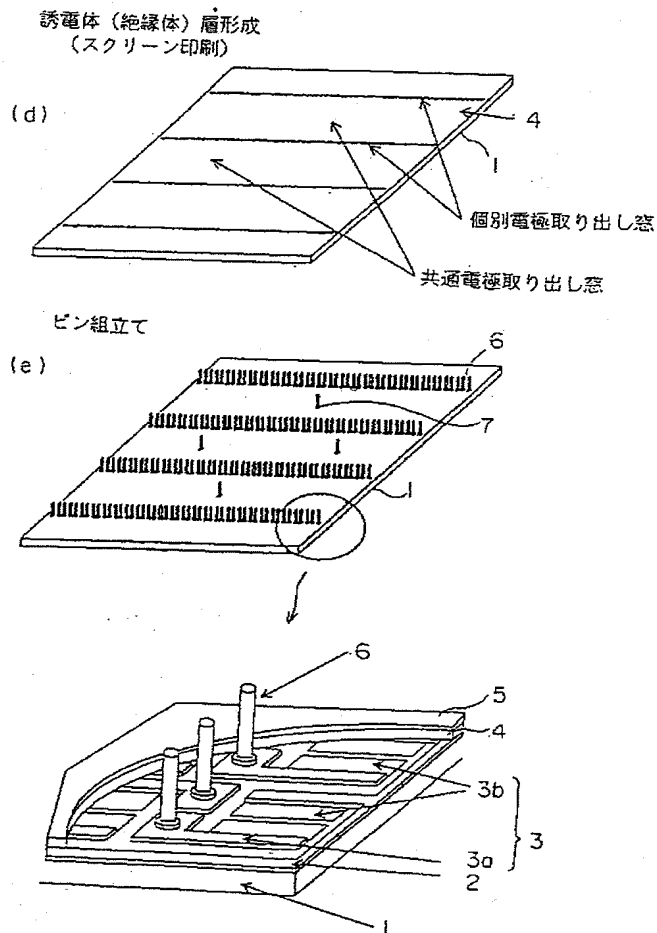
【第8図】



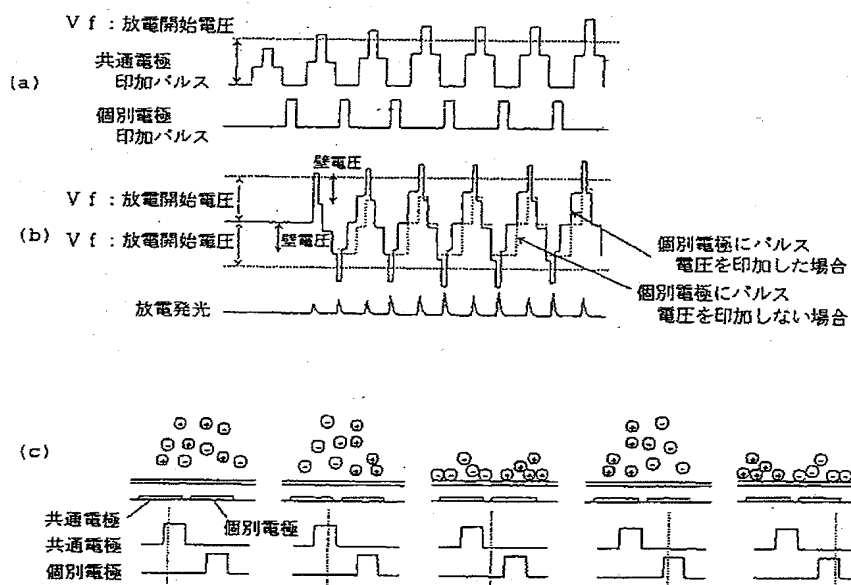
【第25図】



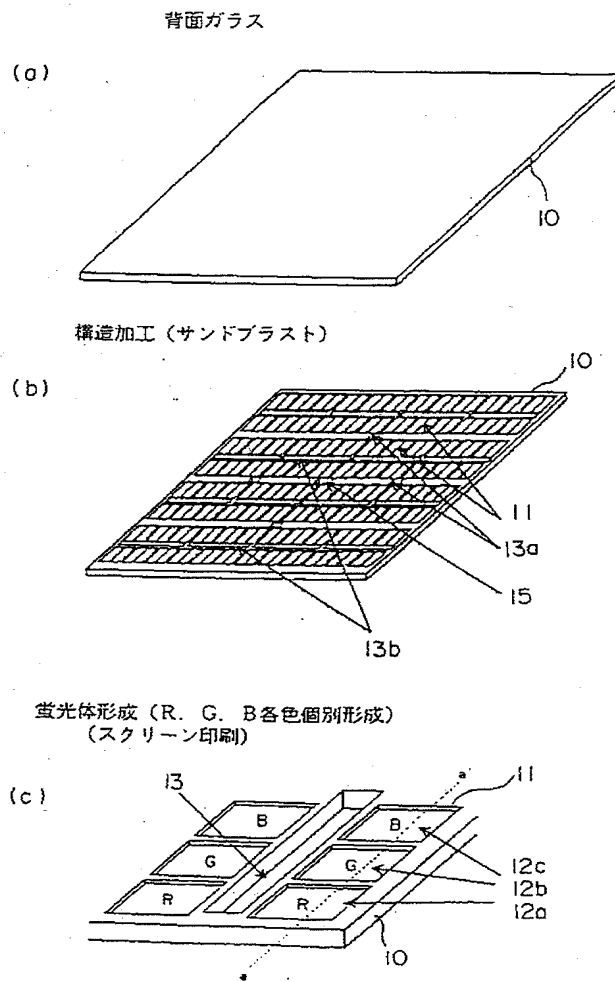
【第9図】



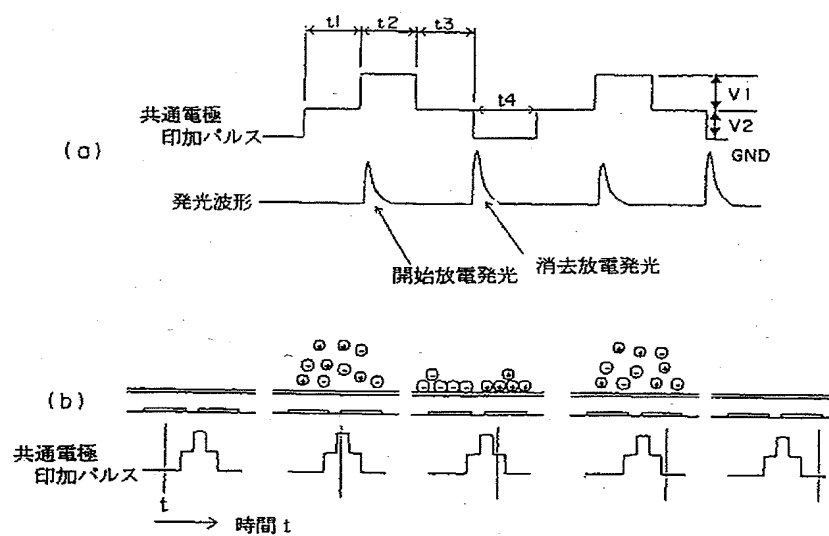
【第24図】



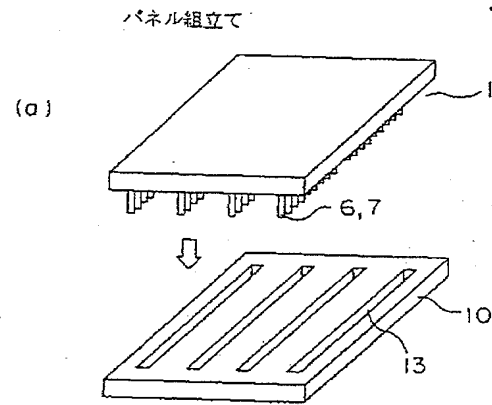
【第10図】



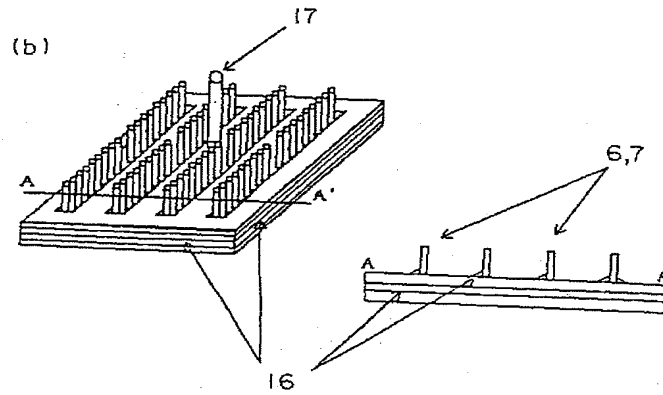
【第27図】



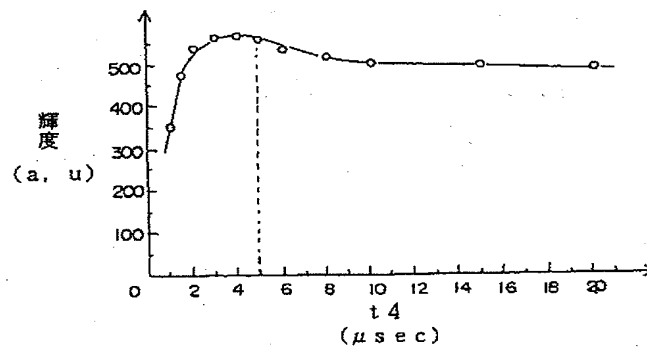
【第11図】



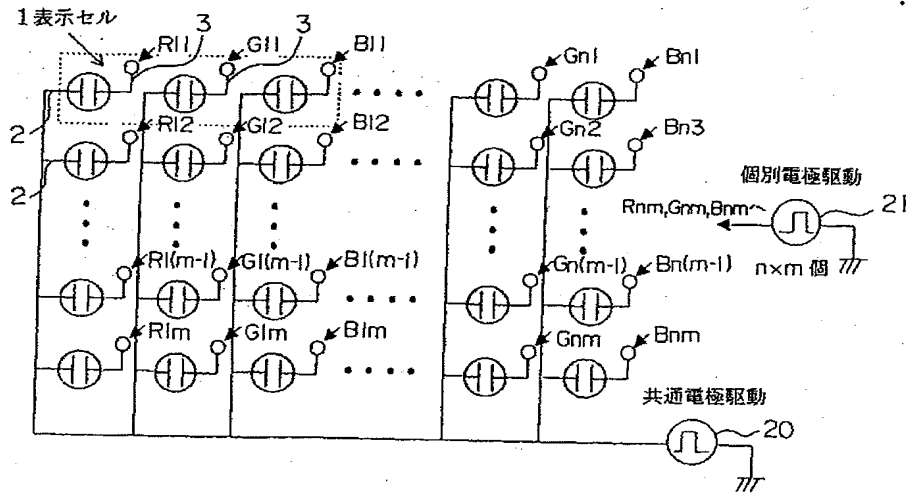
封着 (フリットガラス塗布、熱封止)



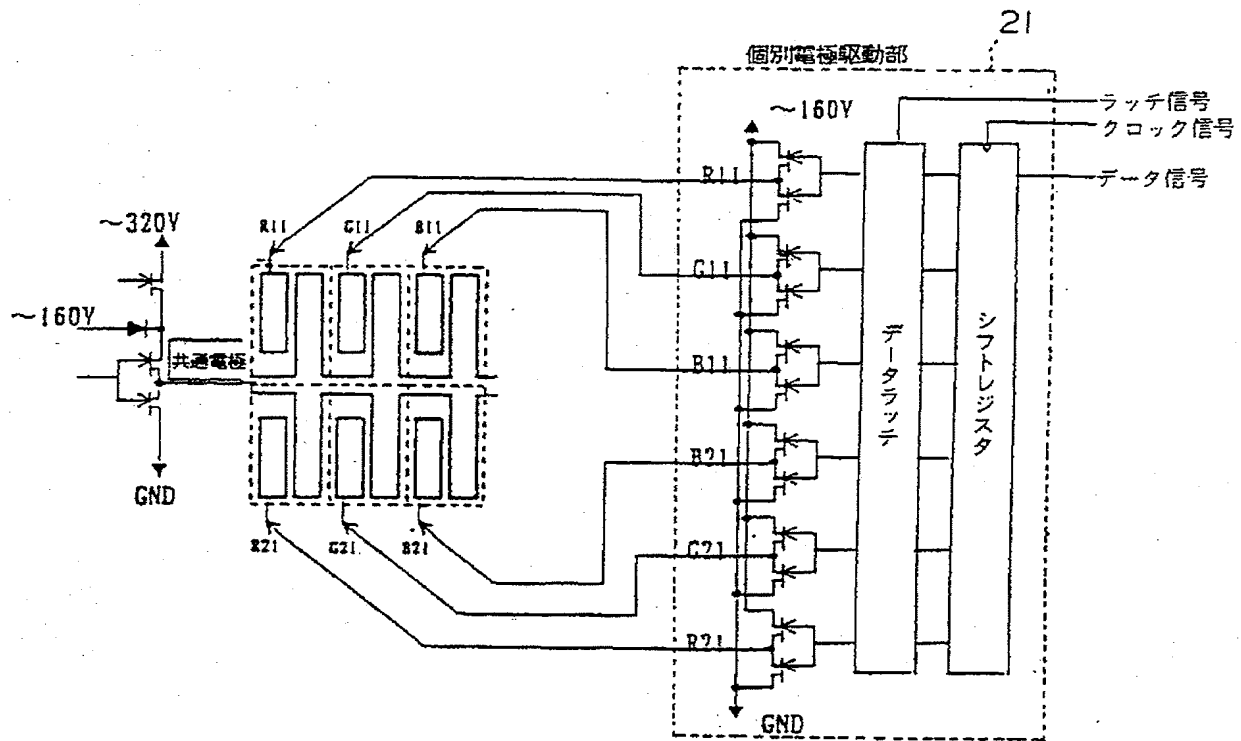
【第29図】



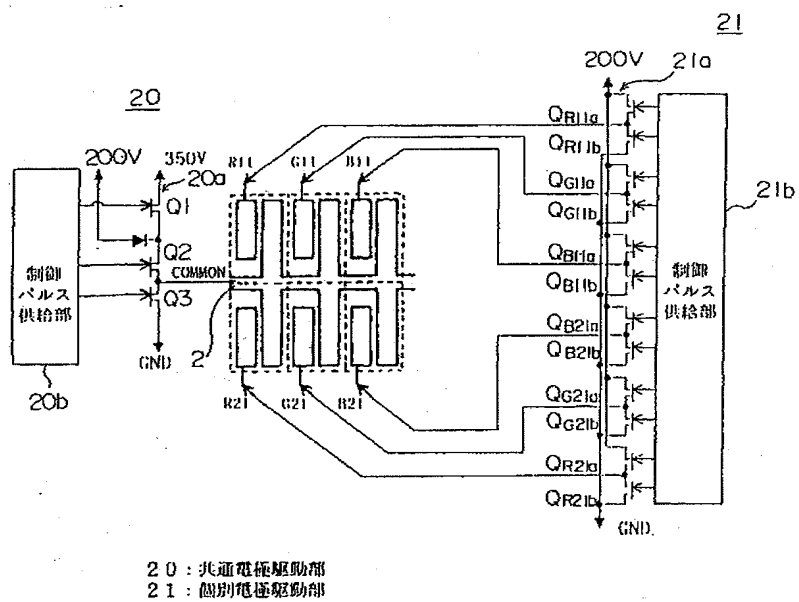
【第12図】



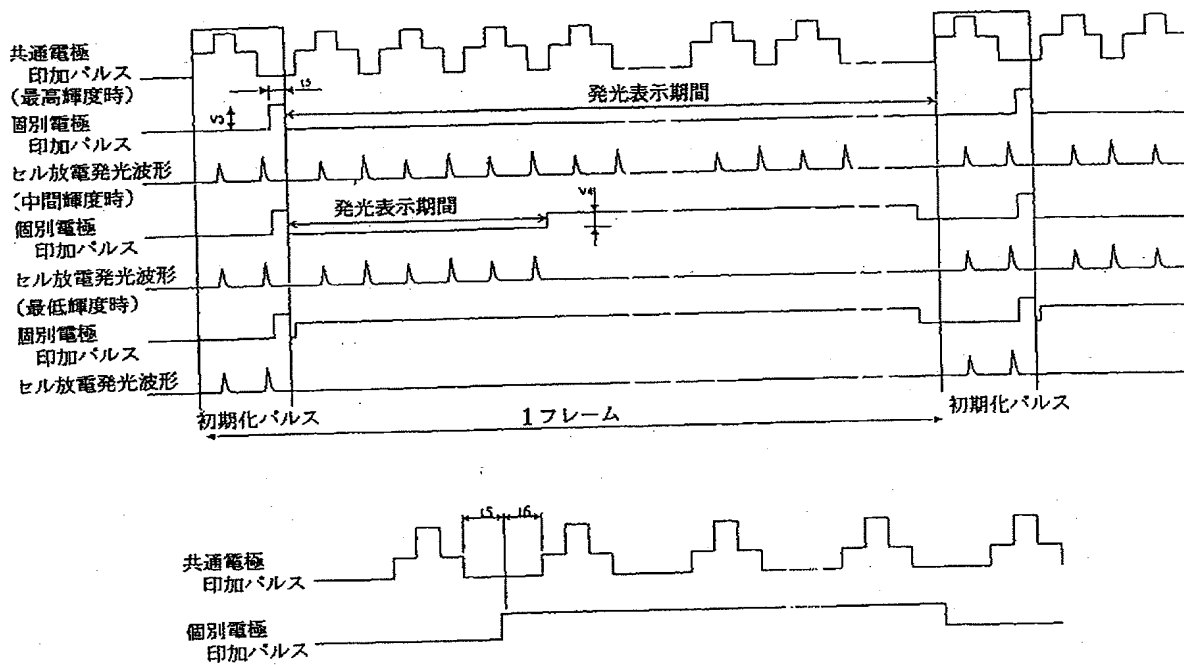
【第22図】



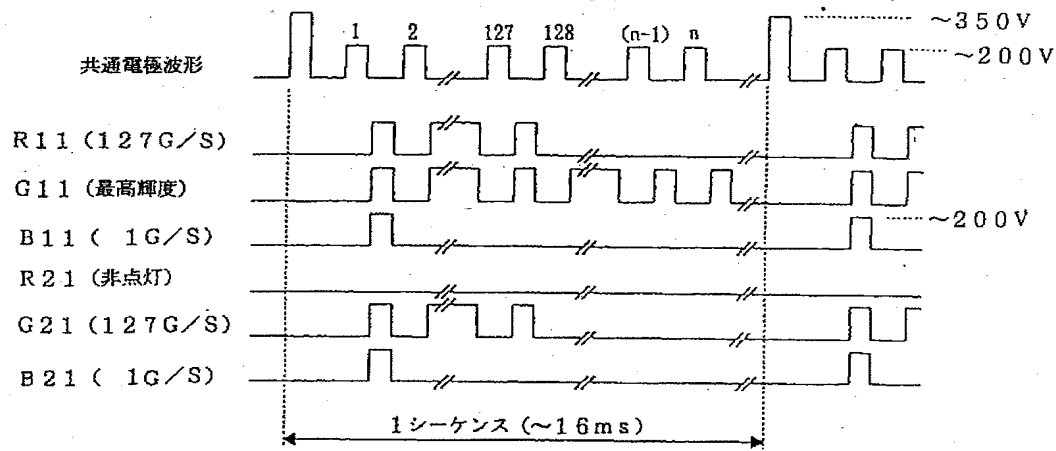
【第 13 図】



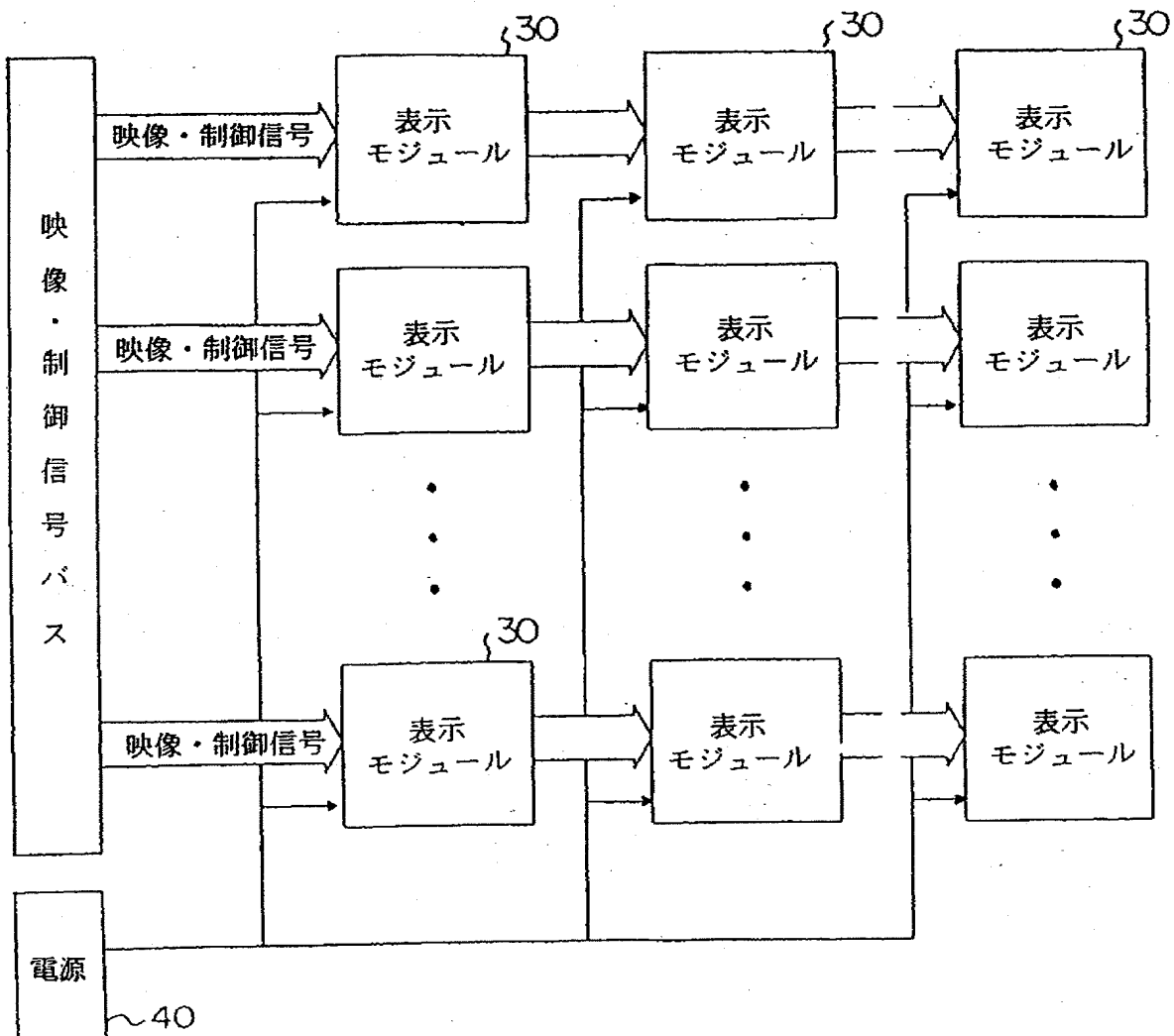
【第23図】



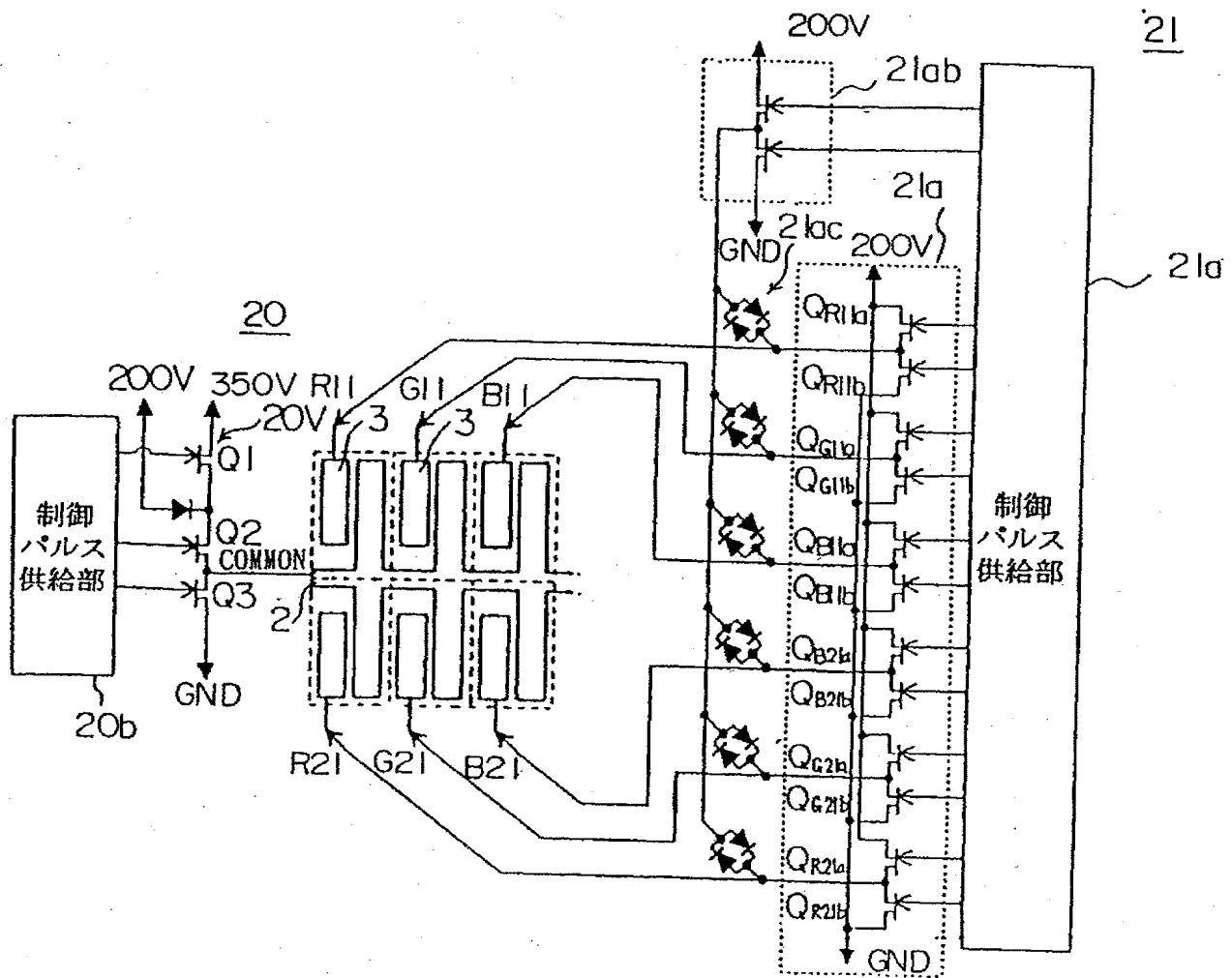
【第14図】



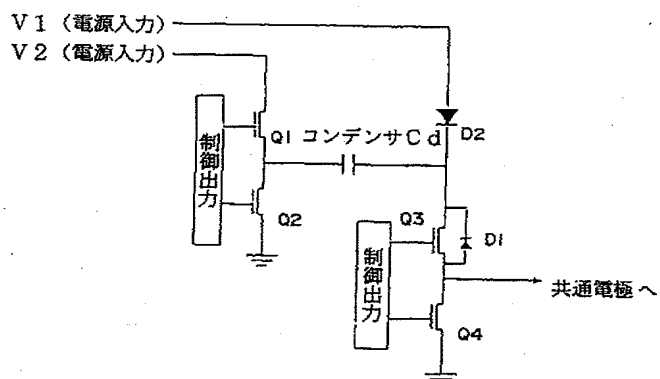
【第17図】



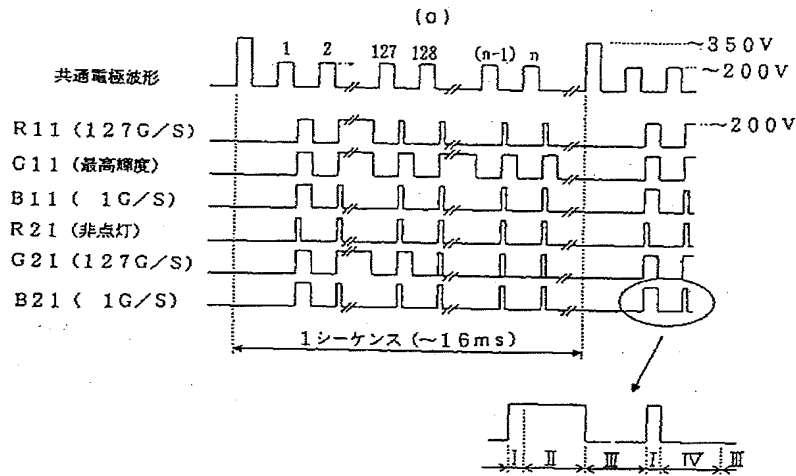
【第 15 図】



【第30図】



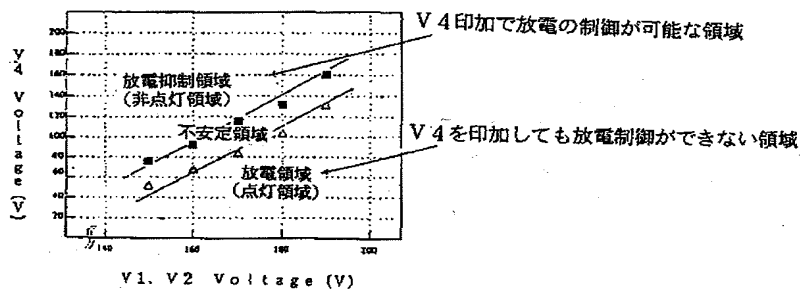
【第16図】



(b)

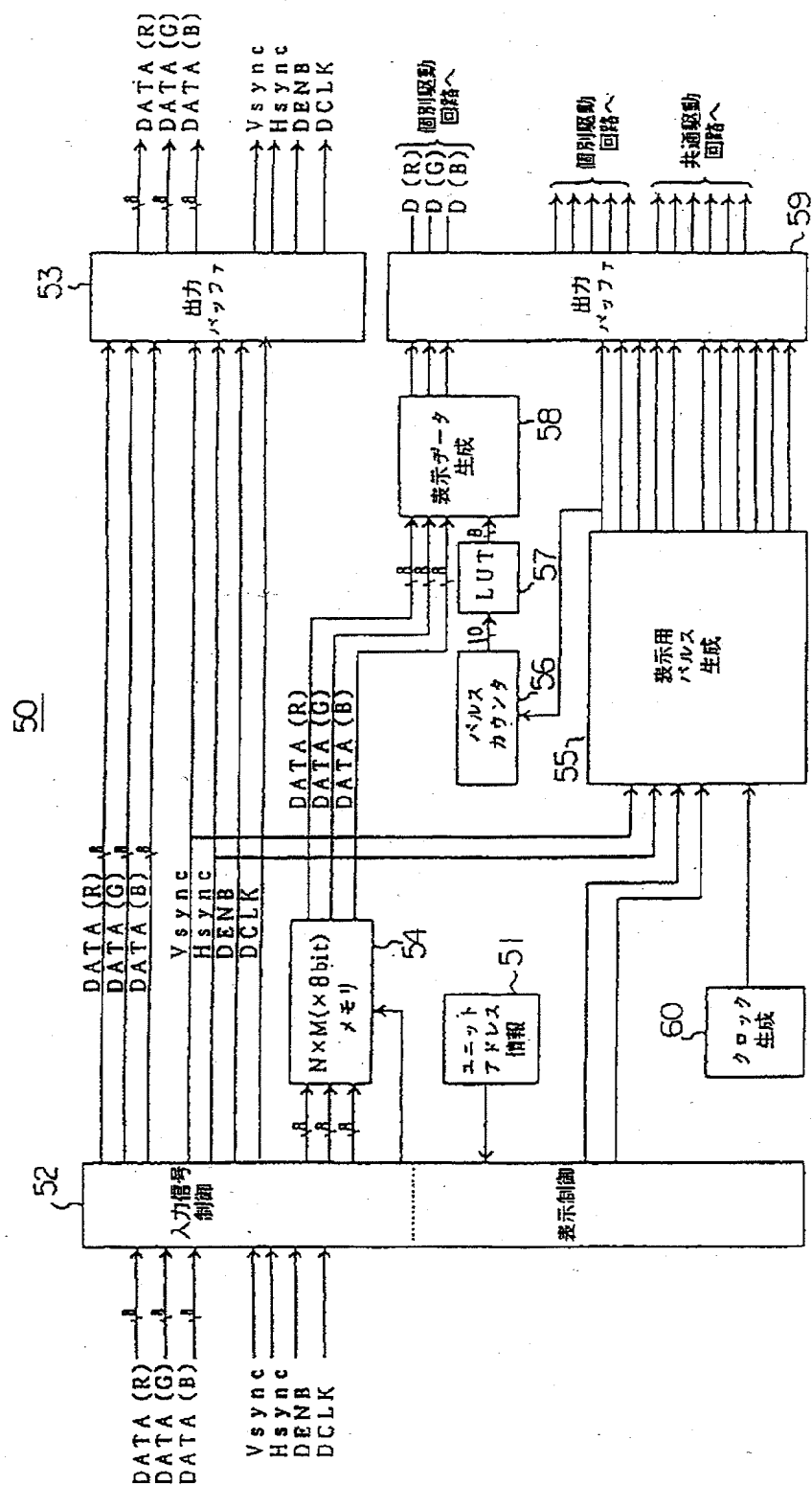
		I	II	III	IV
一括駆動 S/W	ハイサイド S/W	ON	OFF	OFF	OFF
	ローサイド S/W	OFF	OFF	ON	OFF
個別駆動 S/W	ハイサイド S/W	OFF	ON	OFF	OFF
	ローサイド S/W	OFF	OFF	OFF	ON

【第31図】

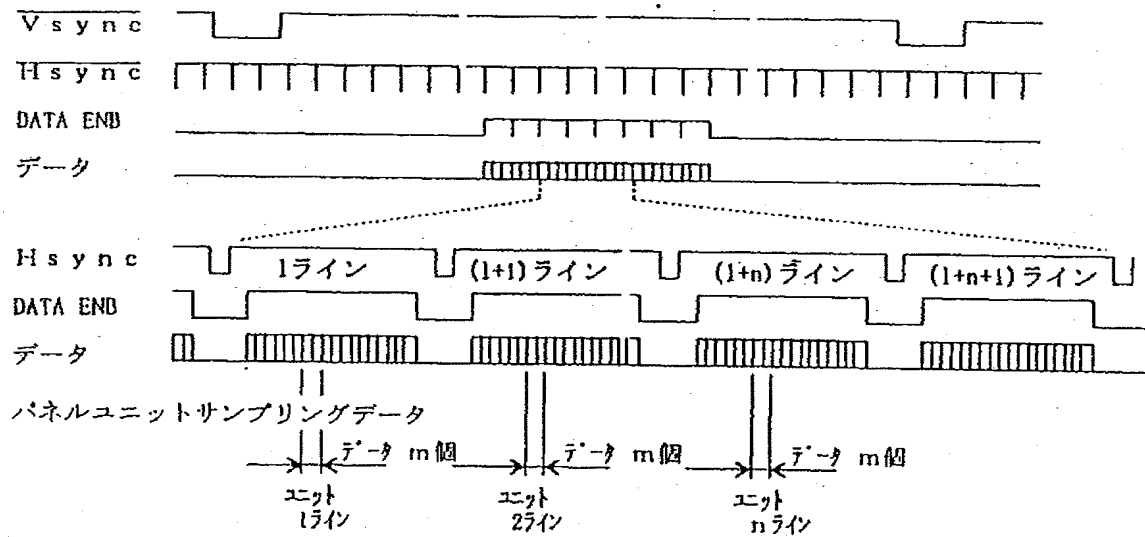


V1, V2 : 共通電極へ印加する電圧値
 この測定では $V1 = V2$ とした。
 V4 : 個別電極へ印加するバイアス電圧
 高圧側で放電光停止

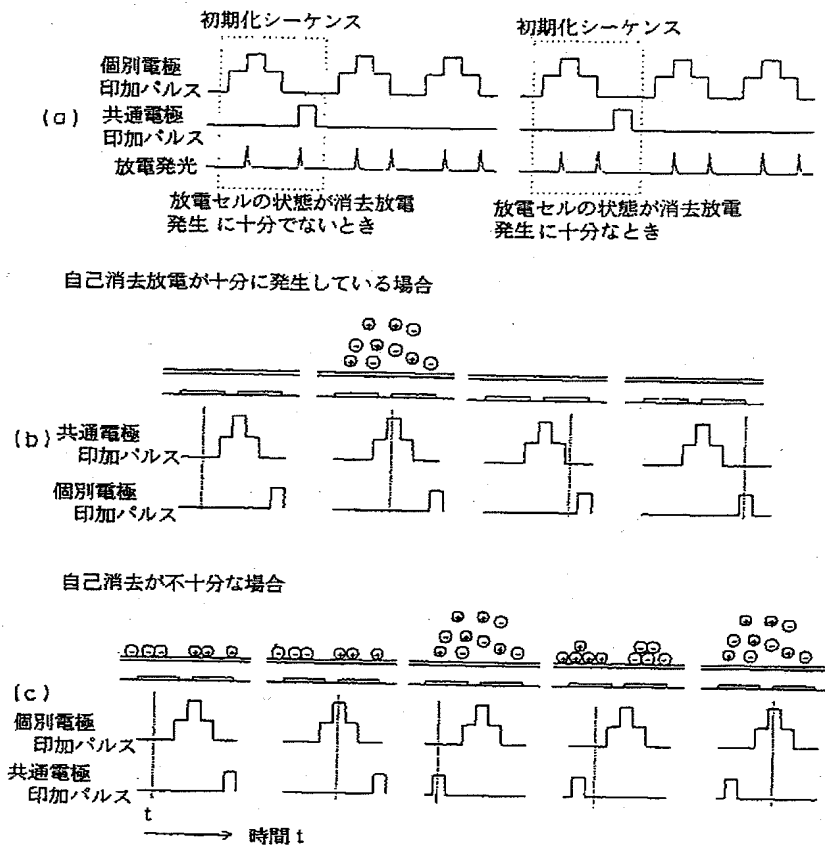
【第18図】



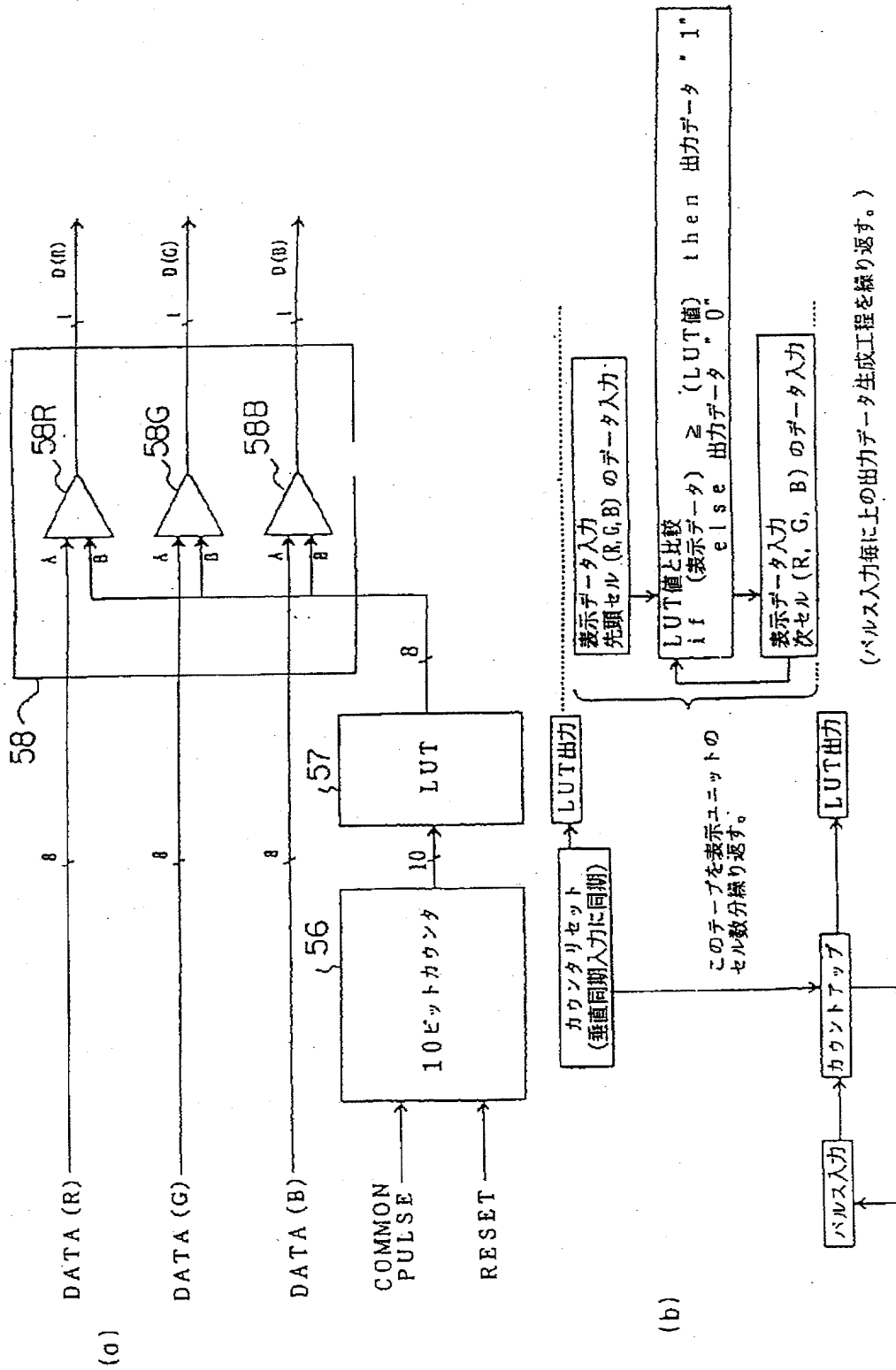
【第19図】



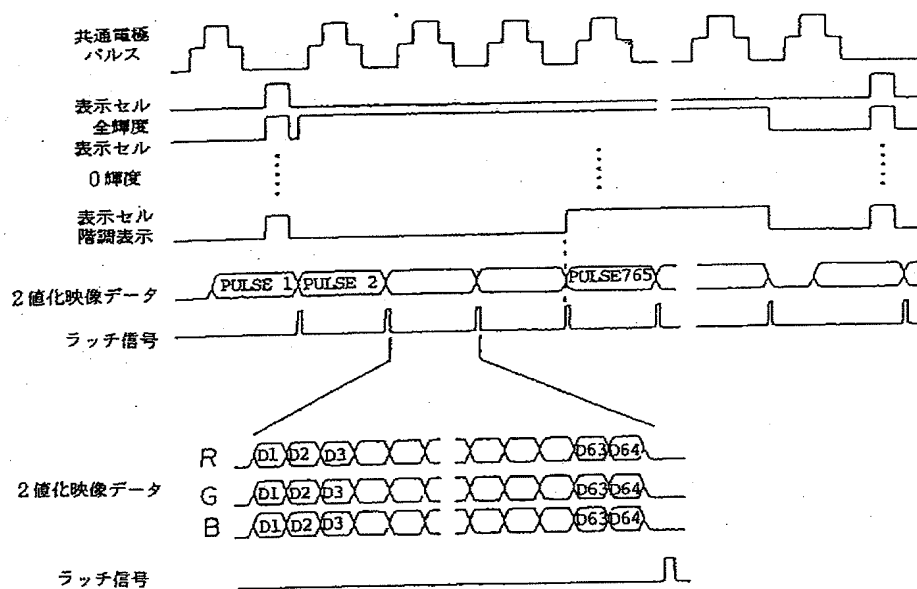
【第26図】



【第20図】



【第32図】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁷

H01J 9/26
9/385

識別記号

F I

H01J 9/385
G09G 3/28

A
B

(56)参考文献 特開 平9-55166 (J P, A)
特開 平3-59928 (J P, A)
特開 平4-47639 (J P, A)

(58)調査した分野(Int.Cl.⁷, D B名)

H01J 11/02
G09F 9/313
G09G 3/288
H01J 9/02
H01J 9/24
H01J 9/26
H01J 9/385